

平成 30 年 度

全学共通教育科目  
履修の手引

〈理学部〉

2018

大 阪 大 学

## 目 次

◆目次	
◆はじめに	1
◆全学共通教育科目を履修するにあたって必ずすること	2
◆履修案内ページの閲覧方法について	3
◆年間スケジュール	4
◆年間カレンダー	5
<b>1. 大阪大学における教育課程の概要</b>	
1.1 大阪大学の教育課程の目的	6
1.2 共通教育のカリキュラム	6
1.3 共通教育の実施方法	7
1.4 共通教育の実施体制	8
1.5 全学教育推進機構建物配置図	8
<b>2. 授業科目</b>	
2.1 全学共通教育科目	9
2.2 教養教育科目	9
2.3 言語・情報教育科目	10
2.4 基礎セミナー	12
2.5 健康・スポーツ教育科目	12
2.6 専門基礎教育科目	13
<b>3. 全学共通教育科目卒業要件単位数一覧表   (理学部)</b>	16
<b>4. 全学共通教育科目授業科目一覧表 (理学部)</b>	17
<b>5. 理学部授業時間表</b>	25
<b>6. クラス編成について</b>	26
<b>7. 履修手続</b>	
7.1 履修登録の原則について	28
7.2 具体的な履修手続方法について	31
7.3 再履修等の手続	31
7.4 履修登録上の注意点	32
<b>8. 試験及び成績</b>	
8.1 受験が認められない場合	33
8.2 筆記試験受験上の注意事項	33
8.3 不正行為と成績評価	34
8.4 追試験	35
8.5 レポート提出	35
8.6 成績	35
8.7 成績結果の誤記入等に関する申立てについて	35
8.8 グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度 について	36
8.9 大阪大学全学教育優秀賞について	37
<b>9. 学習相談/サポートの体制について</b>	38
<b>10. 授業改善のためのアンケートについて</b>	39
<b>11. 交通機関運休等の場合の授業の取扱について</b>	
11.1 交通機関運休の場合の取扱	40
11.2 気象警報発令時の取扱	40
11.3 午前9時以降に上記「11.1 交通機関運休」 「11.2 気象警報発令」がある場合	40
◆付 録	
◎学生の諸手続について	42
◎豊中キャンパス構内図	46
◎全学教育推進機構建物・講義室等配置図	47
◎大阪大学全学共通教育規程	53
◎よくある質問	54

## はじめに

この『履修の手引』は、本学に入学したすべての学生が学修しなければならない「全学共通教育科目」とその履修方法および履修手続き等について説明したものです。

本学の教育科目は、主に「共通教育系科目」と「専門教育系科目」から構成されています。「全学共通教育科目」とは、「共通教育系科目」と「専門教育系科目」の中の「専門基礎教育科目」を指しています。

この手引は、学生の皆さんが主として入学当初から2年次の夏学期にわたって学修することになっている「全学共通教育科目」について、適切な履修計画を立てるための手引として作成されたものですので、熟読し活用してください。本学における教育課程や共通教育のカリキュラムの具体的内容は、この手引の6頁以下において述べられています。また別に作成されている各科目のシラバス等を参考にしてください。

大学における学修は、高等学校までの勉強とは幾つかの点で異なっています。第一は、大学の教育課程では、学生の皆さんの主体的な学修が重視され、授業時間に加えて自ら学修する時間が課せられていることです。第二は、低学年で学術の基本・基礎を築き、高学年で深化・発展させるという点です。第三は、異質な価値観と文化、言語について学修して、人としての幅を拡げ、教養、デザイン力、国際性の三つすべてを兼ね備えた、社会人としての教養と専門の裾野を豊かにすることです。

本学は、学生のみなさんの主体的な学修を支援するために、入学時の学部オリエンテーションを始め、適宜学科によるガイダンスを行い、ガイダンス担当教員やクラス担任教員が履修上の相談に対応しています。また、図書館は予習・復習や主体的な学修のための環境を提供しています。この『履修の手引』、各科目のシラバス、加えて所属学部が作成した『学生便覧』などをよく読み、多種多様な授業科目から適切な科目を選択して、履修手続きを確実に行ってください。

本学は学生の皆さんが入学時の初心を忘れず、主体的な学修を通じて人として社会人として必要となる高度な教養を培うと共に、専門領域の学問の基礎を身に付け、将来のグローバルな社会を担う深く豊かな教養を持った高度知識人となることを期待してやみません。

## 全学共通教育科目を履修するにあたって必ずすること

時期	行事等	必ずすること（全学共通教育科目関係）	チェック
3月中旬	「大学入学関係資料」の到着	送付された資料に不足が無い確認する。	<input type="checkbox"/>
3月中旬～	<p>学部別履修指導で履修計画の立て方についての説明はありますが、4月に入ると行事も多く、じっくり考える時間がありません。</p> <p>また、事前履修希望（抽選）登録会場での作業時間には限りがありますので、必ずこの時期に1年次に履修したい科目を考えておくようにしてください！</p> 	『全学共通教育科目 履修の手引<簡略版>』の内容を確認する。	<input type="checkbox"/>
		以下のURLから、全学教育推進機構HPの新入生向けページにアクセスする。 → <a href="http://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/">http://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/</a>	<input type="checkbox"/>
		履修案内動画（10分程度）を視聴し、全学共通教育科目の履修方法について理解する。	<input type="checkbox"/>
		入学予定学部の履修案内ページに入り、卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）、時間割表及びシラバスを参照しながら、1年次に履修したい科目を検討し、『全学共通教育科目 履修の手引<簡略版>』の付録32頁「1年次履修計画表」に記入する。 ※卒業要件となる科目（卒業要件科目）の一覧は、上記ページや本冊子『履修の手引』から確認できます。	<input type="checkbox"/>
	上記の履修計画に基づき、『全学共通教育科目 履修の手引<簡略版>』の付録34頁「1年次春～夏学期履修希望科目控」に4月初旬の「事前履修希望（抽選）登録」時に登録する科目を控えておく。	<input type="checkbox"/>	
4月2日（月）	学部別履修指導 ※履修計画の立て方についての説明があります。この冊子を忘れずに持参してください。	「健康・スポーツ教育科目コース選択希望届（『全学共通教育科目 履修の手引<簡略版>』の付録39頁）」を提出する。【全員】 「基礎セミナー履修希望届（『全学共通教育科目 履修の手引<簡略版>』の付録39頁）」を提出する。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
4月3日（火）	入学式		
4月4日（水）	事前履修希望（抽選）登録	指定された日時に事前履修希望登録会場に行き、学務情報システム（KOAN）から、履修を希望する科目を登録する。	<input type="checkbox"/>
4月5日（木）	※春～夏学期開講科目	※登録手続きや卒業要件科目等について分からないことがあれば、その場でスタッフに質問することができます。	
4月6日（金）			
4月7日（土）	事前履修希望（抽選）登録結果閲覧開始（7日（土）15時～） ※春～夏学期開講科目	履修が決定した科目をKOANで確認する。 ※基礎セミナーの選考結果は、掲示により発表します。 ※健康・スポーツ教育科目の選考結果は、第1回目の授業時に発表します。	<input type="checkbox"/>
	履修追加登録（先着順登録）開始（7日（土）16時30分～16日（月）13時） ※春～夏学期開講科目	希望した科目が抽選に外れてしまった場合には、必要に応じて「履修追加登録（先着順登録）」期間中に、定員に空きのある別の科目を追加で登録する。 ※この期間を過ぎると履修登録できません。	<input type="checkbox"/>
4月9日（月）	春～夏学期授業開始（～9月30日）		

大学では自分で履修する科目を選択し、科目の種類により所定の方法で履修登録を行う必要があります。

ここでは、「大学入学関係資料」到着後から授業開始日までに、**全学共通教育科目を履修するために必ずしておかなければならないこと**をまとめています。

右端のチェック欄も活用しながら、授業が始まるまでの準備を進めてください。

全学共通教育科目に関して、本冊子や全学教育推進機構HPを参照してもご不明な点があれば、下記によりお問い合わせください。

メールでのご相談 zenkyo-kyomu@g.celas.osaka-u.ac.jp 【4月16日まで受付中】



平成30年度 全学共通教育 年間スケジュール

学期	期 日	行 事		
		セメスター科目スケジュール	ターム科目スケジュール	
春学期	4月 1日(日)	新入生学部別履修指導・学生証交付		
	2日(月)	入学式		
	3日(火)	新入生事前履修希望(抽選)登録 ※春～夏学期開講科目		
	4日(水)	新入生事前履修希望(抽選)登録 ※春～夏学期開講科目 (4月4日～4月6日13時)	新入生事前履修希望(抽選)登録 ※春学期、夏学期開講科目 (4月4日～4月6日13時)	
		新入生定期健康診断(4日～6日)		
	6日(金)	事前履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(4月7日15時) ※春～夏学期開講科目		
	7日(土)	事前履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(4月7日15時) ※春学期、夏学期開講科目	事前履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(4月7日15時) ※春学期、夏学期開講科目	
		履修追加登録(先着順登録)開始 ※春～夏学期開講科目 (4月7日16時30分～4月16日13時)	履修追加登録(先着順登録)開始 ※春学期、夏学期開講科目 (4月7日16時30分～4月16日13時)	
	9日(月)	春～夏学期授業開始(～9月30日)		
	23日(月)	履修取消期間 ※春～夏学期開講科目 (4月23日9時30分～4月27日16時30分)	履修取消期間 ※春学期開講科目 (4月23日9時30分～4月27日16時30分)	
	29日(日)	いちょう祭準備		
	30日(月)	いちょう祭(4月30日・5月1日)・大阪大学記念日(5月1日)		
	5月 1日(火)	いちょう祭片付け(授業休業日)		
	6月 4日(月)～8日(金)	試験実施期間 ※春学期開講科目 (6月4日～6月8日)		
夏学期	6月 11日(月)	夏学期授業開始(6月11日～9月30日)		
	25日(月)	変更登録期間 ※夏学期開講科目 (6月11日9時30分～6月15日16時30分)	履修取消期間 ※夏学期開講科目 (6月25日9時30分～6月29日16時30分)	
	7月 31日(火)～8月 6日(月)	試験実施期間 ※春～夏学期開講科目 (7月31日～8月6日)	試験実施期間 ※夏学期開講科目 (7月31日～8月6日)	
	7日(火)	夏季休業(～9月30日)		
	9月 1日(土)	成績閲覧開始 ※春～夏学期開講科目		
	3日(月)	事前履修希望(抽選)登録 ※秋～冬学期開講科目 (9月3日～9月14日13時)	事前履修希望(抽選)登録 ※秋学期、冬学期開講科目 (9月3日～9月14日13時)	
	25日(火)	事前履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(9月25日9時) ※秋～冬学期開講科目	事前履修希望(抽選)登録結果閲覧開始(9月25日9時) ※秋学期、冬学期開講科目	
		履修追加登録(先着順登録)開始 ※秋～冬学期開講科目 (9月25日9時30分～10月9日13時00分)	履修追加登録(先着順登録)開始 ※秋学期、冬学期開講科目 (9月25日9時30分～10月9日13時00分)	
	秋学期	10月 1日(月)	秋～冬学期授業開始(～3月31日)	
		16日(火)	履修取消期間 ※秋～冬学期開講科目 (10月16日9時30分～10月22日16時30分)	履修取消期間 ※秋学期開講科目 (10月16日9時30分～10月22日16時30分)
11月 1日(木)～4日(日)		大学祭準備(授業休業) 大学祭(2日～4日)		
5日(月)		大学祭後片付け(授業休業)		
20日(火)～12月7日(金)		試験実施期間 ※秋学期開講科目 (11/20～11/21, 11/29, 12/3, 12/7)		
11月 27日(火)		冬学期授業開始(11月27日～3月31日) ※ただし11/29～11/30, 12/3, 12/7は秋学期の授業等を行う		
12月 17日(月)		変更登録期間 ※冬学期開講科目 (11月27日9時30分～12月14日16時30分)	履修取消期間 ※冬学期開講科目 (12月17日9時30分～12月21日16時30分)	
26日(水)～1月 3日(木)		冬季休業		
2月 29日(火)～8日(金)		試験実施期間 ※秋～冬学期開講科目 (1/29～1/30, 2/6～2/8)	試験実施期間 ※冬学期開講科目 (1/29～1/30, 2/6～2/8)	
3月 1日(金)～5日(火)		成績閲覧開始 ※秋～冬学期開講科目 在学生事前履修希望(抽選)登録開始(～20日13時)		

(注) 1. 授業開始日等、各学部の専門科目の日程と一致していないことがありますのでご注意ください。  
2. 大学入試センター試験準備のための臨時休業日は1月18日を予定。

平成30年度 全学共通教育 学年暦

○数字 ターム科目の授業日  
 試 ターム科目の試験日  
 ○数字 セメスター科目の授業日  
 試 セメスター科目の試験日

春学期授業開講期間  
 (4/1~6/10)

夏学期授業開講期間  
 (6/11~9/30)

秋学期授業開講期間  
 (10/1~12/7)

※ただし、11/27,11/28,12/4,12/5,12/6  
 は冬学期の授業を行う。

冬学期授業開講期間  
 (11/27~3/31)

※ただし、11/29,11/30,12/3,12/7は秋学  
 期の授業を行う。

夏季休業期間

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
平成30年 (2018年)		学部別 履修指導	入学式	履修登録 新入生検診	履修登録 新入生検診	履修登録(〜13時) 新入生検診	抽選発表 先着順登録
4月	1	①①	①①	①①	①①	①①	
	8	①①	①①	①①	①①	①①	
	15	②②	②②	②②	②②	②②	
	22	③③	③③	③③	③③	③③	
	29	③③	③③	③③	③③	③③	
5月	6	④④	④④	④④	④④	④④	
	13	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	
	20	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	
	27	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦		
	3	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	
6月	10	①⑨	①⑨	①⑨	①⑨	①⑨	
	17	②⑩	②⑩	②⑩	②⑩	②⑩	
	24	③⑪	③⑪	③⑪	③⑪	③⑪	
	1	④⑫	④⑫	④⑫	④⑫	④⑫	
	8	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	⑤⑬	
7月	15	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	⑥⑭	
	22	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	⑦⑮	
	29	⑧⑯	⑧⑯				
	5	⑧⑰	⑧⑰	⑧⑰	⑧⑰	⑧⑰	
	12	⑨⑱	⑨⑱	⑨⑱	⑨⑱	⑨⑱	
8月	19	⑩⑲	⑩⑲	⑩⑲	⑩⑲	⑩⑲	
	26	⑪⑳	⑪⑳	⑪⑳	⑪⑳	⑪⑳	
	2	⑫㉑	⑫㉑	⑫㉑	⑫㉑	⑫㉑	
	9	⑬㉒	⑬㉒	⑬㉒	⑬㉒	⑬㉒	
	16	⑭㉓	⑭㉓	⑭㉓	⑭㉓	⑭㉓	
9月	23	⑮㉔	⑮㉔	⑮㉔	⑮㉔	⑮㉔	
	30	⑯㉕	⑯㉕	⑯㉕	⑯㉕	⑯㉕	
	7	⑰㉖	⑰㉖	⑰㉖	⑰㉖	⑰㉖	
	14	⑱㉗	⑱㉗	⑱㉗	⑱㉗	⑱㉗	
	21	⑲㉘	⑲㉘	⑲㉘	⑲㉘	⑲㉘	

月/曜	日	月	火	水	木	金	土
10月	1	①①	①①	①①	①①	①①	
	8	②②	②②	②②	②②	②②	
	15	③③	③③	③③	③③	③③	
	22	④④	④④	④④	④④	④④	
	29	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤	⑤⑤		
11月	5	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	⑥⑥	
	12	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	⑦⑦	
	19	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	⑧⑧	
	26	⑨⑨	⑨⑨	⑨⑨	⑨⑨	⑨⑨	
	3	⑩⑩	⑩⑩	⑩⑩	⑩⑩	⑩⑩	
12月	10	⑪⑪	⑪⑪	⑪⑪	⑪⑪	⑪⑪	
	17	⑫⑫	⑫⑫	⑫⑫	⑫⑫	⑫⑫	
	24	⑬⑬	⑬⑬	⑬⑬	⑬⑬	⑬⑬	
	31	⑭⑭	⑭⑭	⑭⑭	⑭⑭	⑭⑭	
	7	⑮⑮	⑮⑮	⑮⑮	⑮⑮	⑮⑮	
平成31年 (2019年)		元日	1	2	3	④⑰	5
1月	6	④⑱	⑤⑱	⑤⑱	④⑲	④⑲	
	13	⑥⑲	⑥⑲	⑥⑲	⑤⑲	⑤⑲	
	20	⑦⑲	⑦⑲	⑦⑲	⑥⑲	⑤⑲	
	27	⑧⑲	⑧⑲	⑧⑲	⑦⑲	⑦⑲	
	3	⑦⑳	⑦⑳	⑦⑳	⑥⑲	⑥⑲	
2月	10	⑧⑳	⑧⑳	⑧⑳	⑧⑳	⑧⑳	
	17	⑨㉑	⑨㉑	⑨㉑	⑨㉑	⑨㉑	
	24	⑩㉑	⑩㉑	⑩㉑	⑩㉑	⑩㉑	
	3	⑪㉒	⑪㉒	⑪㉒	⑪㉒	⑪㉒	
	10	⑫㉒	⑫㉒	⑫㉒	⑫㉒	⑫㉒	
3月	17	⑬㉒	⑬㉒	⑬㉒	⑬㉒	⑬㉒	
	24	⑭㉓	⑭㉓	⑭㉓	⑭㉓	⑭㉓	
	31	⑮㉓	⑮㉓	⑮㉓	⑮㉓	⑮㉓	
	7	⑯㉔	⑯㉔	⑯㉔	⑯㉔	⑯㉔	
	14	⑰㉔	⑰㉔	⑰㉔	⑰㉔	⑰㉔	

・・・土・日・祝日及び休業日を示す(緑字は祝日)。  
 ・・・大学行事又は入試準備のための臨時休業日(予定)を示す。

- 4月29日(日) いちよう祭準備
- 4月30日(月)~5月1日(火) いちよう祭
- 5月 2日(水) いちよう祭片付け
- 11月 1日(木) 大学祭準備
- 11月 2日(金)~4日(日) 大学祭
- 11月 5日(月) 大学祭片付け
- 1月18日(金) センター試験準備

# 1 大阪大学における教育課程の概要

## 1.1 大阪大学の教育課程の目的

今日の社会では、国際化、高度情報化、価値観の多様化が急速に進んでいます。大学に学ぶみなさんは、こうした社会の変化や技術の進歩に対して柔軟に対応する能力を身につけなければなりません。このために大阪大学は、「教養」「デザイン力」「国際性」をそなえた人材の養成を教育目標としてあげています。そして、この目標達成のための具体的なカリキュラムを教育課程といいます。

大阪大学の教育課程は、共通教育と専門教育に大きく分けられます。共通教育は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育むことを目的にしています。したがって、各学部が設定する4年ないし6年間の一貫した教育の中で、共通教育と専門教育を相補う形で行うことが、大阪大学の教育課程の基本的な理念となっています。

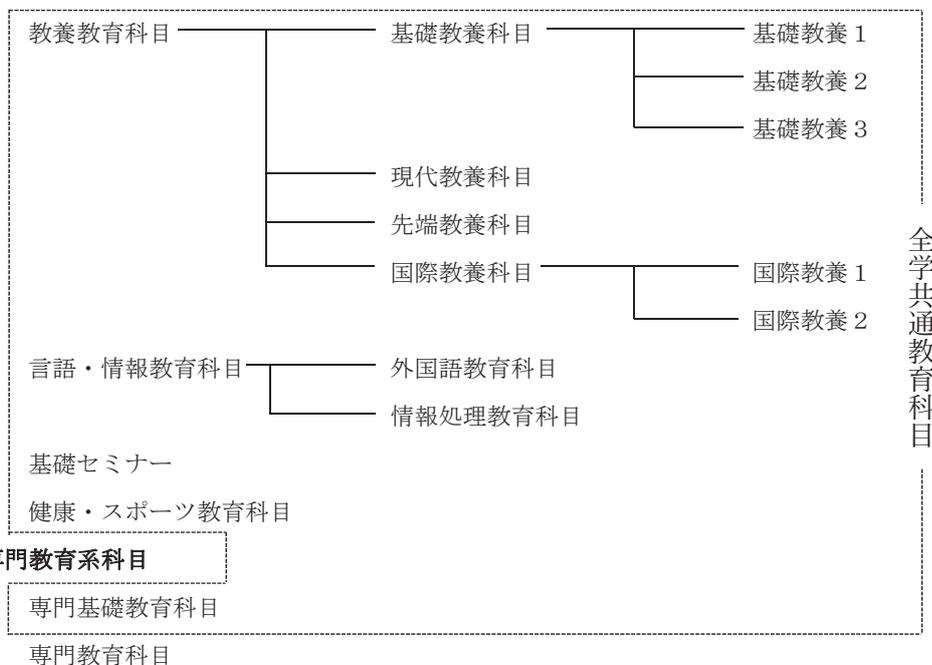
## 1.2 共通教育のカリキュラム

本学の授業科目は、別表に示す「共通教育系科目」「専門教育系科目」「教職教育科目」「国際交流科目」「コミュニケーションデザイン科目」「グローバルコラボレーション科目」からなっています。みなさんが2年次の夏学期までに主に学修するのが、点線で囲まれた「全学共通教育科目」です。ここには、「共通教育系科目」と「専門基礎教育科目」（「専門教育系科目」の一部をなす）が含まれます。

共通教育系科目は、「教養教育科目」「言語・情報教育科目」「基礎セミナー」および「健康・スポーツ教育科目」から構成されています。これら科目の詳細内容は、次章の「2 授業科目」で説明されています。

(別表) 授業科目の区分

### 共通教育系科目



### 教職教育科目

### 国際交流科目

### コミュニケーションデザイン科目

### グローバルコラボレーション科目

### 1.3 共通教育の実施方法

大学における学修は、教室で行われる授業はもちろん、教室外学修も重要です。学生の自発的な学修を促すために、セミナー等の少人数の授業や演習・実験といった形式の授業も採用されています。コンピュータシステムを用いた授業もあります。

教育効果への配慮から、各授業科目の受講者数を制限しており、ほとんどの科目はその調整を授業開始前に行っています。このため、学期ごとに履修を希望する科目の届け出を早い時期に行います。新入生にとっては入学早々の手続きのため、その方法等に戸惑いがあるかも知れませんが、この『履修の手引』の他に各科目のシラバス等（Webのみで閲覧できます。<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/fresher/>）から各学部のページにアクセスしてください。）をよく読んで、間違いのないように行ってください。

#### 1.3.1 4学期制

大阪大学では、1年間を4つの学期に区分し、1学期あたり8週の授業実施期間を設け、各学期で授業を完結させることができる柔軟な制度を取ります。学期の区分の名称は、以下のとおりです。

春学期：4月1日～6月中旬

夏学期：6月中旬～9月30日

秋学期：10月1日～12月初旬

冬学期：12月初旬～3月31日

「全学共通教育科目」においては、多くの科目は2つの学期を通して学修する、「セメスター科目（半年単位の科目）」となっており、「春～夏学期」「秋～冬学期」と表記されます。

2年次の夏学期までの1年半は、共通教育に重点が置かれ、「全学共通教育科目」（「共通教育系科目」と「専門基礎教育科目」）が主に開講されています。

#### 1.3.2 授業時間・単位

授業時間は次のとおりです。ほとんどの科目は時限単位で開講されますが、実験科目は3時限連続となります。

第1時限	休み	第2時限	休み	第3時限	休み	第4時限	休み	第5時限	休み	第6時限
8:50～ 10:20		10:30～ 12:00		13:00～ 14:30		14:40～ 16:10		16:20～ 17:50		18:00～ 19:30

学修を数量的に示すために「単位」という言葉が用いられます。標準として45時間の学修を必要とする内容をもって構成される授業科目に1単位が与えられ、この45時間は大学の教室等で行う授業の部分と、教室外の自宅等で行う部分との和です。

全学共通教育科目の授業時間と単位は次頁のようになっています。春～夏学期、秋～冬学期それぞれでは通常15回（週）の授業を行いますので、1時限分（2時間とみなします）の授業を2学期間学修すると30時間となり、教室外学修の時間を加えて教養教育科目等では2単位、外国語教育科目等は1単位と計算されます。



## 2. 授 業 科 目

### 2.1 全学共通教育科目

全学教育推進機構が、全学共通教育科目として行う授業科目の区分は次のとおりです。なお、ここでは全学共通教育科目として開講している全ての科目区分について記載しています。所属学部の卒業要件となる科目については、3章から5章で説明していますので、必ず確認してください。

#### 2.1.1 共通教育系科目

- ①教養教育科目
- ②言語・情報教育科目
- ③基礎セミナー
- ④健康・スポーツ教育科目

#### 2.1.2 専門教育系科目

専門基礎教育科目

### 2.2 教養教育科目

教養教育科目は、「**基礎教養科目**」、「**現代教養科目**」、「**先端教養科目**」および「**国際教養科目**」の4つに区分されます。

#### 2.2.1 基礎教養科目

基礎教養科目は、大阪大学が擁する既成の専門分野のエッセンスを「入門」「基礎的教養」あるいは「思考力の涵養」という観点から分かりやすく講じ、学生のみなさんに当該領域における正しい知識を提供し、当該領域が持つ意義を理解させます。本科目は教養教育科目の中核と位置づけているもので、人文科学を中心とする「**基礎教養1**」、文系の学生を対象とする自然科学「**基礎教養2**」、理系の学生を対象とする自然科学「**基礎教養3**」の3つに区分されます。なお、「**基礎教養1**」の中には、一部、英語で行われる科目もあります。

#### 2.2.2 現代教養科目

現代教養科目は、環境、生命倫理、人権、差別など、現代社会が抱えるさまざまな問題を大阪大学が擁する多彩な専門領域から多角的に講じ、現代を生きる学生が同時代の複雑かつ困難な状況について考えるきっかけを提供します。

#### 2.2.3 先端教養科目

先端教養科目は、大阪大学が擁する既成の専門分野の最先端の研究状況を分かりやすく講じて、研究という営みの魅力や醍醐味を伝えます。また大阪大学教員以外の、世界で活躍する人々からも学びます。

#### 2.2.4 国際教養科目

国際教養科目は、大学のモットー「地域に生き世界に伸びる」が示す国際化時代に対応しうる会話、教養、マナー等の能力あるいは知性の涵養を目的とし、世界各地の文化・歴史などの教養を内容とする「**国際教養1**」および言語習得を主目的とする「**国際教養2**」の2つに区分されます。

国際教養2では、第2外国語の履修を前提としてその知識をさまざまに応用させることを目指す「国際コミュニケーション演習」、「地域言語文化演習」、「多文化コミュニケーション(留学生のみ)」

および第2外国語以外のさまざまな言語に関する知識を豊かにし文化理解を深めるための「特別外国語演習」が開講されています。

「国際コミュニケーション演習」は、第2外国語によるコミュニケーション能力を高めることを目的としており、ネイティブの外国人教員による授業も開講されています。

「地域言語文化演習」は、第2外国語に対応する文化圏のさまざまな言語文化について理解を深めることを目的としていますが、その方法としては、外国語文献の読解やテーマ別の講義、演習等、様々な方法による授業が開講されています。

「特別外国語演習」は、第1外国語・第2外国語以外のアジア・アフリカ・中東・ヨーロッパ諸語の基礎的文法を習得するとともに、それら諸地域の文化的特性に関する理解を深めることを目的としており、当該言語文化の専門家による授業が開講されています。

「多文化コミュニケーション（日本語）」は、留学生と基礎セミナーとして履修する一般学生とが共同で課題に取り組み議論することによって、多文化コミュニケーション能力・多文化行動能力を養成することを目的とする演習形式の授業です。

## 2.3 言語・情報教育科目

この科目は、外国語教育科目と情報処理教育科目に二分され、外国語教育科目は、さらに、第1外国語、第2外国語および選択外国語に分けられます。

### 2.3.1 外国語教育科目

大阪大学における外国語教育は、①授業内容の多様化と到達目標の明確化、②少人数クラスの導入、③CALLやESP（English for Specific Purposes）等の最新の授業形態の導入、④外国語の多様化などを行い、学生のみなさんによりよい語学教育を提供できるように努力しています。

以下、第1外国語、第2外国語、選択外国語の構成について詳しく説明します。

#### 2.3.1.1 第1外国語

大学英語	英語（Reading）	人文・社会・自然科学の諸分野にかかわる高度な内容の英文を読解する能力を養成します。
	英語（Writing）	レポート、論文等論理的な英文を書く能力を養成します。
	英語（Listening）	ニュース、講演、対談等知的な内容の英語が理解できるリスニング力を養成します。
	英語（Speaking）	英語を用いてのコミュニケーション能力や論理的なプレゼンテーション能力を養成します。
	英語上級（Reading） 英語上級（Writing） 英語上級（Listening） 英語上級（Speaking）	英語（Reading）、英語（Writing）、英語（Listening）、英語（Speaking）の内容をさらに高度にしたものです。
	英語検定訓練コース	英語検定試験にも対応できる実践的英語運用能力を養成します。
	英語基礎訓練コース	英語を母語とする教員により英語運用能力を養成します。
実践英語・ 専門英語	実践英語	英語圏への留学なども想定し、大学生としてふさわしい実践的、総合的な英語の運用能力の養成を目標としますが、特にリスニング力の向上を目指すよう構成されています。また、TOEFLやTOEICなどの英語検定試験対策に目標を定めたトレーニングも行います。
	専門英語基礎	実践英語の修得を基本とし、専門分野で必要とされる英語運用能力の基礎を養成します。
総合英語	英語（integrated course）	相当レベルのリーディング、ライティング、リスニング、プレゼンテーション技能を有機的に連動させ、高度の英語運用能力を総合的に養成します。

### 2.3.1.2 第2外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語、日本語）

第2外国語としては、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語の7種類、留学生に対しては日本語を加えた8種類の外国語が開講されています。学生のみなさんは各学部の指示に従いこれらの外国語の中から1つを選び、同じ外国語で必要単位数をそろえることになっています。

	初級	中級	上級
ドイツ語	<p>1週に1回開かれており、発音及び基本的な文法事項を習得することを目的としています。1年次の春～夏学期で受講する科目は各外国語の初級Ⅰであり、この科目は各外国語を初めて学ぶ学生のみなさんのための入門クラスになっています。1年次の秋～冬学期で受講するのは各外国語の初級Ⅱであり、1年次の春～夏学期の初級Ⅰの続きになっており、基本的な文法事項を学修していきます。このように1年間通して学修することによって、将来の文献講読やコミュニケーションのためのしっかりとした基礎をつくることが初級Ⅰ・Ⅱの目標です。</p>	<p>各外国語の中級は初級で学んだことより、より高度な文法事項を習得し、読解力を養成することを目的としており、2年次の春～夏学期及び秋～冬学期に開かれています。</p>	<p>ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語については、各外国語の能力をよりいっそう高めたい学生のみなさんのためにさらに上級の科目が用意されています。</p>
フランス語			
ロシア語			
中国語			
朝鮮語			
スペイン語			
イタリア語			
日本語 ※留学生のみ	<p>全学部対象に2科目（「総合日本語」と「専門日本語」）が計週3～5コマ（学期によって異なる）開講されています。学部指定はありませんので、授業内容および各自の時間割などを勘案して、原則として春～夏学期及び秋～冬学期にそれぞれ1科目を選んで履修します。</p>		

### 2.3.1.3 選択外国語（人間科学部・文学部のみ対象）

第1外国語(英語)、第2外国語(ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語)、第3外国語（ギリシャ語、ラテン語）の中から春～夏学期及び秋～冬学期にそれぞれ1言語を選んで履修します。

英語 ドイツ語 フランス語 ロシア語 中国語	<p>英語選択：各年次・学期では、特色ある授業が複数開講されます。各科目のシラバスを参考にして、履修してください。</p> <p>ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ選択、フランス語初級Ⅰ・Ⅱ選択、ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ選択、中国語初級Ⅰ・Ⅱ選択はそれぞれ同一の外国語の初級Ⅰ・Ⅱを履修していることを前提としたやや高度な言語運用能力の養成をはかるものです。</p> <p>2年次の各学期に開講される選択外国語は、いずれも1年次の各学期の外国語の内容をより高度化したものです。従って、1年次の各学期の外国語を履修していることを前提とします。</p>
ギリシャ語 ラテン語	<p>選択外国語には、第1外国語・第2外国語としても開講されている言語の他に、第3外国語のギリシャ語、ラテン語も開講されています。</p> <p>これら2言語は1週に1回の授業で、文字・発音及び基本的な文法事項を基礎として、より高度な言語能力を習得することを主な目的としています。1年次の春～夏学期で受講する科目はいずれも初級Ⅰ選択であり、これらの科目はギリシャ語とラテン語の入門クラスになっています。1年次の秋～冬学期で受講するのは同じ外国語の初級Ⅱ選択であり、1年次の春～夏学期の初級Ⅰ選択の続きになっており、基本的な文法事項等をさらに学修していきます。このように1年間通して学修することによって、将来の文献講読のためのしっかりとした基礎をつくることが、初級Ⅰ選択・初級Ⅱ選択の目標です。さらに、2年次の各学期で開かれている中級Ⅲ選択・中級Ⅳ選択では、初級Ⅰ選択・初級Ⅱ選択で学んだことを基礎にして、さらに高度な文法事項を学ぶとともに、文献講読に進みます。</p>

### 2.3.2 情報処理教育科目

コンピュータの機能・性能は日進月歩であり、インターネットの発展もめざましいものがあります。いまやコンピュータとインターネットなくしては、社会活動が機能しません。大学で勉強するに際しても、コンピュータを道具として自由に使いこなすことは必須条件です。また、インターネットを利用して各種の情報を収集し、主体的に情報発信することが求められています。

情報処理教育科目は、「情報活用基礎」をはじめとして合計7つの授業科目で構成されています。コンピュータを用いてメールをやりとりし、レポートを作成することは日常のことであり、コンピュータでは何ができて何が不得意なのか、インターネットやデータベースから欲しい情報を得るにはどうすればよいか、入手したデータを適切に扱うためには何に留意すべきかなどを科学的に考えられるようになることは、情報科学を専門としない学生にも重要なことです。

## 2.4 基礎セミナー

大学に入学して、どのように勉学を進めてゆくか思い悩むことはないでしょうか。大学に入学する動機は一人ひとり違っているでしょうが、各自が抱いている興味を発展させながら、主体的にものを考え、学問への意欲を育てること、ひいては学問と人生や社会との関わりについて思索を深めることは、とても重要なことです。基礎セミナーは、少人数の学生が教員を囲んで、一つのテーマについて質疑・応答・討論をする対話形式で進める授業です。基礎セミナーでは、学問の先達である教員と直に接しながら、教員の提示するテーマを通してその研究分野や学究態度を学ぶとともに、人生の先輩としての教員の人生観・世界観などを摂取することも可能です。また、実際に実験装置などを使って研究をしてみる体験的課題追求型授業もあります。

基礎セミナーのテーマは数多く提示されていて、学生のみなさんは本学の研究の多様性の一端に触れることができます。内容や形式も原書講読、各種調査、実習・実験などと様々であり、セミナーの実施場所も教室に限らず、教員研究室、実験室、セミナー室、フィールドと多様です。基礎セミナーのための時間帯として金曜・5時限が当てられています。教員の都合によって、他の曜日と時限が指定されているものもあります。中には、夏休みに短期集中の形で行われるものもあります。

単位の認定方法等は、試験・レポートなど、その方式が各担当教員に委ねられています。受講に当たっては、その教員の指示に従わねばなりません。また、やむを得ずセミナーを欠席するときは、その都度、教員に報告して許可を得てください。

## 2.5 健康・スポーツ教育科目

健康・スポーツ教育科目は、健康と体力、そして身体運動に関する幅広い知識を修得し、自主的、合理的に生涯にわたって自身の健康管理と運動、スポーツ活動を有意義に行うための教養と実践力を学ぶことを主眼として開講するものです。

具体的には、必修科目とする「スポーツ実習A」と選択科目の「健康科学」、「健康科学実習A」、「スポーツ科学」、さらには上位学年で自由科目として選択可能な「スポーツ実習B」で構成されています。

スポーツ実習 A	各種スポーツの実習（実技）を通して運動の習慣化を図ることをねらいとしています。実技を主体とする授業展開にはスポーツ理論、ルール解説等の講義も含まれます。
健康科学	健康を科学的に捉えるべく各種測定、実験ならびに結果の討論を通して自身の健康レベルの把握と評価、そして保持・増進への処方について学びます。
健康科学実習 A	理論と実践の一体化を図ることをねらいとして、各種スポーツならびにレクリエーション・ゲーム、トレーニング、健康・体力測定など、教室と運動場を併用して行います。
スポーツ科学	運動のメカニズムやゲーム戦術を学びながら、各種スポーツの実習を行うなど、関連学問領域に触れながらスポーツ実践を体験・体感することをねらいとしています。
スポーツ実習 B	履修者状況に応じて、スポーツ種目を選択し、特に技術力の向上を目指すことをねらいとしています。

※年度によっては、文部科学省依頼の「体力・運動能力調査」を実施する場合があります。

1年次には、学部共通で必修および選択科目をセットで履修するようにコース設定（01～04 コース）されており（本冊子の4章に掲載している「健康・スポーツ教育科目履修コース概要」等、要参照）、事前の希望コースの申請（学部別履修指導の際に「健康・スポーツ教育科目コース選択希望届（『履修の手引<簡略版>』の付録P39）」を提出）を踏まえ、履修コースを決定します。コース決定後は原則として変更等は認められません。なお、障がい等により上記科目の履修が困難な場合は事前に届け出ることにより、また、授業期間中に障害等が発生した場合は速やかに担当教員に申し出ることにより、適宜対応が可能です（「健康処方クラス：スポーツ実習A」への継続受講等）。

また、必要単位（2単位）取得後に更に本科目への履修希望者には、2年次の各学期に自由科目の「スポーツ実習B」を履修することができます。

健康・スポーツ教育科目については、授業第1回目に第1体育館メインフロアーにて履修ガイダンスおよびクラス分けを行います。1回目の授業では、説明事項や諸作業が多いため、始業時刻と同時に開始します。時刻厳守にて集合してください。もし欠席してしまった場合には、必ず健康体育研究棟1階資料室で手続きを行ってください。

## 2.6 専門基礎教育科目

専門基礎教育科目では、学部の専門教育の幅広い基礎となる学問を学ぶことになります。これらの科目は下記の視点から選ばれています。

- ① 専門分野における基礎的な方法の修得
- ② 専門分野の基礎的な概念の理解
- ③ 専門から発展する周辺分野を理解する能力の養成

理系の専門基礎教育科目の多くは上記①と②の視点から不可欠であるので必修の指定がされています。講義形式の授業が多いですが、比較的少人数で行われる数学演習や図学実習もあります。

文系の科目についていえば、ほとんどが選択ですので、授業の選択にあたっては各人が将来専門とする分野との関連を考慮する必要がありますが、同時に狭い専門の枠組にとらわれない広い視野を養成するという視点も大切です。



**⑥Discovery Seminar：はじめての研究（1年次（春～夏学期） 木曜・6限）【基礎セミナー】**

高校までの「学び」では、与えられた問題を解くことが中心でした。しかし、大学で皆さんがたずさわることになる研究にとってもっとも重要なのは、みずから課題を発見し、新しい知識を生み出していくことです。

「Discovery Seminar：はじめての研究」では、受講生のみなさんがみずから研究課題を設定し、実際に研究をやってみることを通して、研究とはどのようなものかを経験すると同時に、それに必要なスキルを習得します。

授業は、グループワークやディスカッション、授業時間外の調査やフィールドワークなどを中心に行われます。複数の授業担当教員とTAの先輩たちが、学生の皆さんの「学び」をさまざまなかたちでサポートします。やる気のある皆さんの積極的な参加を期待しています。

### 3. 全学共通教育科目卒業要件単位数一覧表（理学部）

	教養教育科目					言語・情報教育科目				基礎セミナー	健康・スポーツ教育科目	専門基礎教育科目 (注2)	その他(注3)	合計	
	基礎教養科目	現代教養科目	先端教養科目	国際教養科目		外国語教育科目									情報処理教育科目 (注1)
	基礎教養1			国際教養1	国際教養2	第1外国語			第2外国語						
						大学英語	実践英語	専門英語							
	2	2	2	2	4	3	1	3	2	—	2	25	6	54	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
備考	注1：所定の単位数（必修2単位）を超えて修得した場合、2単位を限度として理学部専門教育科目の選択科目の単位として認められることがあります。 注2：「専門基礎教育科目（ただし、理学部コア科目に限る。）」は、所定の卒業要件単位（必修19単位、選択必修4単位、選択2単位（物理学科は、必修23単位、選択2単位））を超えて修得した場合、4単位を限度として理学部専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。 注3：「その他」の6単位は、○印で指定された科目のうちから、卒業要件単位を超える分をもって充てます。なお、「国際教養2」「外国語教育科目」「健康・スポーツ教育科目」については、理学部配当科目及び*印のついた科目のみを「その他」の単位と認めます。														

※全学共通教育科目にかかる進級・卒業や研究室配属時の要件については、所属の学部教務担当係に確認してください。

※「化学・生物学複合メジャーコース」（理学部・工学部・基礎工学部共同）の学部英語コースに関することについては、学部英語コースの学生便覧を参照してください。

## 4. 全学共通教育科目授業科目一覧表（理学部）

ここに掲載されている表は、「2.1 全学共通教育科目」で述べた授業科目がどのように配当されているかを科目区分ごとにまとめたもので、次の順に掲載されています。

- 4.1 教養教育科目
- 4.2 言語・情報教育科目
- 4.3 基礎セミナー
- 4.4 健康・スポーツ教育科目
- 4.5 専門基礎教育科目

表中の記号は次のとおりです。

◎	必修科目	必ず履修するように指定された科目
※	選択必修科目	区分ごとに付された条件に従い選択して履修する科目
○	選択科目	区分ごとに選択して履修する科目
	自由科目	卒業要件に算入されない科目（他学部配当科目もこれに含まれます）

### 積重ね科目について

全学共通教育科目においては、原則として同一名称の科目を重複して履修することはできませんが、国際教養2と外国語教育科目の一部のみ、例外として同一名称の科目を重複して履修することができます。そうした科目を「積重ね科目」といいます（表中で授業科目名の背景が灰色になっており、末尾に数字がついています）。

これらの「積重ね科目」は、科目ごとに履修できる上限数が指定されており、みなさんはその範囲内で同一名称の科目を重複して履修することができます。

「積重ね科目」は、シラバス等には数字を省略した授業科目名が記載されていますが、みなさんが単位を修得した順に成績管理のコンピュータ処理により自動的に数字が付番され、成績表には数字の付いた正式な授業科目名が記録されます。

例えば、国際教養2について1年次の春～夏学期から2年次の秋～冬学期で下表の左側のように科目を履修した場合、その修得した科目名は右側のようになります。

学期	履修科目名	修得科目名
1年次（春～夏学期）	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）1
1年次（秋～冬学期）	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）2
2年次（春～夏学期）	地域言語文化演習（ドイツ語）	地域言語文化演習（ドイツ語）1
2年次（秋～冬学期）	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）3

また、各授業科目の履修については、「7.履修手続」を参照してください。

### 4.1 教養教育科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数	備考	
基礎教養科目	基礎教養1 2単位	日本の歴史	2	○	
		東洋の歴史	2	○	
		西洋の歴史	2	○	
		日本の文学	2	○	
		東洋の文学	2	○	
		西洋の文学	2	○	
		教養としての日本語	2	○	
		東洋の芸術	2	○	
		西洋の芸術	2	○	
		世界の思想	2	○	
		日本国憲法	2	○	
		法の世界	2	○	
		政治の世界	2	○	
		経済の世界	2	○	
	思考の世界	2	○		
	人間の世界	2	○		
	心の世界	2	○		
	世界の中の日本語日本文化	2	○		
	ことばの世界	2	○		
			Basic Learning Skills 1(Quantitative Research Methods)	2	
		Basic Learning Skills 2(Qualitative Research Methods)	2		
基礎教養2	-	数学の考え方	2		卒業要件の単位とはなりません。
		生命科学の考え方	2		
		化学の考え方	2		
		物理学の考え方	2		
		宇宙地球科学の考え方	2		
		グラフィックスの世界	2		
		健康科学の考え方	2		
		文系学生のための科学実験	2		
基礎教養3	-	現代数学の基礎	2		卒業要件の単位とはなりません。
		現代生命科学の基礎	2		
		現代化学の基礎	2		
		現代物理学の基礎	2		
		現代宇宙地球科学の基礎	2		
		グラフィックスの基礎	2		
		健康科学の基礎	2		
環境科学の基礎	2				
現代教養科目	2単位	現代の法と政治を考える	2	○	
		経済現象を読み解く	2	○	
		現代社会を読み解く	2	○	
		現代文化を読み解く	2	○	
		現代の差別を考える	2	○	
		現代の医療と生命を考える	2	○	
		現代の環境を考える	2	○	
		現代の生命倫理・法・経済を考える	2	○	

科目区分	必要 単位数	授業科目名	単位数		備考		
先端 教養科目	先端 教養科目と 国際教養 1から2単位	大阪大学の歴史	2	○			
		知性への誘い	2	○			
		関西は今	2	○			
		女性リーダーとの対話	2	○			
		現代キャリアデザイン論	2	○			
		震災の知・復興の知	2	○			
		共生社会とアクセシビリティ	2	○			
		大学生活と社会	2	○			
		健康・医療イノベーション学Ⅰ	2	○			
		健康・医療イノベーション学Ⅱ	2	○			
		今、がんは	2	○			
		おいしく食べる	2	○			
		「くすり」と生体	2	○			
		再生医学	2	○			
		病気のバイオサイエンスⅠ	2	○			
		病気のバイオサイエンスⅡ	2	○			
		物理学・宇宙地球科学の先端科学	2	○			
		安全・安心・快適な社会づくり	2	○			
		環境・エネルギー問題を考える	2	○			
		自然環境学	2	○			
		科学・技術と情報の最前線	2	○			
		データ科学	2	○			
		データ科学と意思決定	2	○			
		データ科学による課題解決実践	2	○			
		データ科学による課題解決入門	2	○			
		データ科学のための数理	2	○			
		データ科学特講	2	○			
		データ解析の実際	2	○			
		工学と現代数学の接点	2	○			
		工学への数値シミュレーション	2	○			
		数値シミュレーションの基礎	2	○			
		数理モデリングの基礎	2	○			
		文理融合に向けた数理科学Ⅰ	2	○			
		文理融合に向けた数理科学Ⅱ	2	○			
		先端ビーム科学	2	○			
		「ものづくり」における接合の科学と工学	2	○			
		生命を担う物質-蛋白質	2	○			
		実践的危機管理入門	2	○			
		イノベーション	2	○			
		技術と社会	2	○			
		Frontier Lectures from University of California I	2	○			
		Frontier Lectures from University of California II	2	○			
		国際 教養科目	国際 教養 1	国際政治を考える	2	○	
				平和の問題を考える	2	○	
				国際社会の法を考える	2	○	
				欧米の文化と社会を知る	2	○	
				アジアの文化と社会を知る	2	○	
中東の文化と社会を知る	2			○			
ユーラシアの文化と社会を知る	2			○			
アフリカの文化と社会を知る	2			○			
世界は今	2			○			
世界の事情を英語で学ぶ	2			○			
世界の事情を英語で学ぶ 中級編	2	○					

科目区分	必要 単位数	授業科目名	単位数	備考		
国際教養科目	2 単位	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）1	2	○	各自が履修する第2外国語に対応する科目から所定の単位を修得しなければなりません。 受講に際しては、同じテキストを使用している授業を履修し4単位以上を修得することはできません。2度目以降の受講は無効になりますので注意してください。履修登録の際、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と同じテキストを使用する授業は絶対に希望しないでください（ただし、シラバス等で授業で扱う章、ページ数などが明記しており、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と異なる場合は受講が可能です）。また、自動的に当該クラスに配当されてしまった場合は、必ず全学教育推進機構等事務部教務係まで申し出てください。なお、語学という科目の性質上、異なった科目で同じテキストを使用している場合もありますので注意してください。  1年次（春～夏学期）で2単位修得してください。 *印を付した科目については、「3. 全学共通教育科目卒業要件単位数一覧表（理学部）」の備考欄注3を参照してください。	
		国際コミュニケーション演習（ドイツ語）2	2	*		
		国際コミュニケーション演習（フランス語）1	2	○		
		国際コミュニケーション演習（フランス語）2	2	*		
		国際コミュニケーション演習（ロシア語）1	2	○		
		国際コミュニケーション演習（ロシア語）2	2	*		
		国際コミュニケーション演習（中国語）1	2	○		
		国際コミュニケーション演習（中国語）2	2	*		
		地域言語文化演習（ドイツ語）1	2	○		
		地域言語文化演習（ドイツ語）2	2	*		
		地域言語文化演習（フランス語）1	2	○		
		地域言語文化演習（フランス語）2	2	*		
		地域言語文化演習（ロシア語）1	2	○		
		地域言語文化演習（ロシア語）2	2	*		
		地域言語文化演習（中国語）1	2	○		
		地域言語文化演習（中国語）2	2	*		
		多文化コミュニケーション（日本語）1	2	○		外国人留学生対象
		多文化コミュニケーション（日本語）2	2	*		
		特別外国語演習（広東語）I	2			卒業要件の単位としては認められませんが、各自が履修する第2外国語の言語に関わりなく、特別外国語演習を履修することができます。  配当学期の指定はありません。ただし、各言語の特別外国語演習（○○語）IIは、特別外国語演習（○○語）Iを受講したことを前提とした授業内容になっています。
		特別外国語演習（インドネシア語）I	2			
	特別外国語演習（モンゴル語）I	2				
	特別外国語演習（モンゴル語）II	2				
	特別外国語演習（タイ語）I	2				
	特別外国語演習（ビルマ語）I	2				
	特別外国語演習（ビルマ語）II	2				
	特別外国語演習（ヒンディー語）I	2				
	特別外国語演習（アラビア語）I	2				
	特別外国語演習（アラビア語）II	2				
	特別外国語演習（トルコ語）I	2				
	特別外国語演習（トルコ語）II	2				
	特別外国語演習（スワヒリ語）I	2				
	特別外国語演習（スワヒリ語）II	2				
	特別外国語演習（ハンガリー語）I	2				
特別外国語演習（デンマーク語）I	2					
特別外国語演習（デンマーク語）II	2					
特別外国語演習（スウェーデン語）I	2					
特別外国語演習（スウェーデン語）II	2					
特別外国語演習（ポルトガル語）I	2					
特別外国語演習（ポルトガル語）II	2					

「授業科目名」の背景が灰色の科目は、「積重ね科目」です。指定された上限数（「授業科目名」の右側に記載の数字）まで、同一名称の科目を重複して履修できます。

4.2 言語・情報教育科目

4.2.1 外国語教育科目

4.2.1.1 第1外国語

科目区分	必要 単位数	授業科目名	単位数		備考
第1外国語	大学英語 4単位	英語 (Reading) 1	1	○	
		英語 (Reading) 2	1	○	
		英語 (Reading) 3	1	○	
		英語 (Reading) 4	1	○	
		英語 (Writing) 1	1	○	
		英語 (Writing) 2	1	○	
		英語 (Writing) 3	1	○	
		英語 (Writing) 4	1	○	
		英語 (Listening) 1	1	○	
		英語 (Listening) 2	1	○	
		英語 (Listening) 3	1	○	
		英語 (Listening) 4	1	○	
		英語 (Speaking) 1	1	○	
		英語 (Speaking) 2	1	○	
		英語 (Speaking) 3	1	○	
		英語 (Speaking) 4	1	○	
		英語上級 (Reading) 1 (注)	1	○	
		英語上級 (Reading) 2 (注)	1	○	
		英語上級 (Reading) 3 (注)	1	○	
		英語上級 (Reading) 4 (注)	1	○	
		英語上級 (Writing) 1 (注)	1	○	
		英語上級 (Writing) 2 (注)	1	○	
		英語上級 (Writing) 3 (注)	1	○	
		英語上級 (Writing) 4 (注)	1	○	
	英語上級 (Listening) 1 (注)	1	○		
	英語上級 (Listening) 2 (注)	1	○		
	英語上級 (Listening) 3 (注)	1	○		
	英語上級 (Listening) 4 (注)	1	○		
	英語上級 (Speaking) 1 (注)	1	○		
	英語上級 (Speaking) 2 (注)	1	○		
	英語上級 (Speaking) 3 (注)	1	○		
	英語上級 (Speaking) 4 (注)	1	○		
	-	-	英語検定訓練コース1	1	*
-	-	英語検定訓練コース2	1	*	
-	-	英語基礎訓練コース1	1	*	
-	-	英語基礎訓練コース2	1	*	
実践英語・ 専門英語	3 単位	実践英語1	1	◎	
		実践英語2	1	◎	
		実践英語3	1	◎	
	1 単位	専門英語基礎1	1	◎	

(注) 上級科目については、TOEFL-PBTあるいはTOEFL-ITP で520点、TOEFL-CBT で190点、TOEFL-iBT で68点以上の実力を持ったものを対象とします。配当年次・学期の指定はありません。

第1外国語の受講に際しては、同じテキストを使用している授業を履修し2単位以上を修得することはできません。2度目以降の受講は無効になりますので注意してください。履修登録の際、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と同じテキストを使用する授業は絶対に希望しないでください(ただし、シラバス等で授業で扱う章、ページ数などが明記しており、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と異なる場合は受講が可能です)。また、自動的に当該クラスに配当されてしまった場合は、必ず全学教育推進機構等事務部教務係まで申し出てください。なお、語学という科目の性質上、異なった科目で同じテキストを使用している場合もありますので注意してください。

「授業科目名」の背景が灰色の科目は、「積重ね科目」です。指定された上限数(「授業科目名」の右側に記載の数字)まで、同一名称の科目を重複して履修できます。

英語を母語とする外国人留学生および特別な理由のある者に対しては、特例を認める場合があります(学生便覧を参照のこと)。

[各年次・学期に配当されている科目]

第1外国語は各年次・学期に以下のように配当されています。再履修の場合を除き、この配当に従って履修しなければなりません。

1年次 (春～夏学期)		1年次 (秋～冬学期)		2年次 (春～夏学期)		2年次 (秋～冬学期)	
単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	授業科目名
2	大学英語、実践英語	2	大学英語、実践英語	2	大学英語、実践英語	2	大学英語、専門英語基礎

[年次・学期に関係なく履修できる科目]

大学英語の区分で開講される科目のうち、英語上級・英語検定訓練コースおよび英語基礎訓練コースについては、配当年次・学期の指定がありません。ただし、英語上級については受講に当たって一定の条件がありますので、授業科目一覧表の備考欄で確認してください。各種訓練コースは、卒業要件の「その他」の単位とすることができます。

4.2.1.2 第2外国語

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数		備考	
第2外国語	ドイツ語	ドイツ語初級Ⅰ	1	○	(注) 上級科目について各言語の上級科目は、2年次の春～夏学期から履修でき、卒業要件の「その他」の単位となります。	
		ドイツ語初級Ⅱ	1	○		
		ドイツ語中級	1	○		
		ドイツ語上級1 (注)	1	*		
		ドイツ語上級2 (注)	1	*		
		ドイツ語上級3 (注)	1	*		
		ドイツ語上級4 (注)	1	*		
	フランス語	フランス語初級Ⅰ	1	○		
		フランス語初級Ⅱ	1	○		
		フランス語中級1	1	○		
		フランス語上級1 (注)	1	*		
		フランス語上級2 (注)	1	*		
		フランス語上級3 (注)	1	*		
		フランス語上級4 (注)	1	*		
	ロシア語	ロシア語初級Ⅰ	1	○		
		ロシア語初級Ⅱ	1	○		
		ロシア語中級1	1	○		
		ロシア語上級1 (注)	1	*		
		ロシア語上級2 (注)	1	*		
		ロシア語上級3 (注)	1	*		
		ロシア語上級4 (注)	1	*		
	中国語	中国語初級Ⅰ	1	○		
		中国語初級Ⅱ	1	○		
		中国語中級1	1	○		
		中国語上級1 (注)	1	*		
		中国語上級2 (注)	1	*		
		中国語上級3 (注)	1	*		
		中国語上級4 (注)	1	*		
	日本語	総合日本語1	1	○		外国人留学生対象
		総合日本語2	1	○		
総合日本語3		1	○			
専門日本語1		1	○			
専門日本語2		1	○			
専門日本語3		1	○			

第2外国語の受講に際しては、同じテキストを使用している授業を履修し2単位以上を修得することはできません。2度目以降の受講は無効になりますので注意してください。履修登録の際、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と同じテキストを使用する授業は絶対に希望しないでください(ただし、シラバス等で授業で扱う章、ページ数などが明記しており、すでに単位を修得した授業あるいは当該学期で履修中の授業と異なる場合は受講が可能です)。また、自動的に当該クラスに配当されてしまった場合は、必ず全学教育推進機構等事務部教務係まで申し出てください。なお、語学という科目の性質上、異なった科目で同じテキストを使用している場合もありますので注意してください。  
 「授業科目名」の背景が灰色の科目は、「積重ね科目」です。指定された上限数(「授業科目名」の右側に記載の数字)まで、同一名称の科目を重複して履修できます。

[ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語]

第2外国語(日本語を除く)は各年次・学期に以下のように配当されています。再履修の場合を除き、この配当に従って履修しなければなりません。

1年次(春～夏学期)	1年次(秋～冬学期)	2年次(春～夏学期)
○○語初級Ⅰ	○○語初級Ⅱ	○○語中級

[日本語(外国人留学生のみ)]

日本語を選択できる者は、外国人留学生のみです。日本語を選択した外国人留学生は、原則として各年次・学期に「総合日本語」「専門日本語」のどちらかから1科目を選び、3単位を修得してください。

4.2.2 情報処理教育科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	年次・学期	単位数	備考
情報処理教育科目	2単位	情報活用基礎	1年次(春～夏)	2	◎
	-	コンピュータのしくみ	1年次(春～夏)	2	*
		情報科学入門	1年次(秋～冬)	2	*
		情報社会と倫理	1年次(秋～冬)	2	*
		情報探索入門	1年次(秋～冬)	2	*
		計算機シミュレーション入門	1年次(秋～冬)	2	*
		アドバンスド情報リテラシー	1年次(秋～冬)	2	*

2単位を限度として理学部専門教育科目の選択科目の単位として認められることがあります(理学部学生便覧を参照のこと)。

4.3 基礎セミナー

卒業要件の「その他」の単位となります。  
 なお、基礎セミナーは、春～夏学期、秋～冬学期にそれぞれ1科目しか履修することはできません（履修希望届も同時に2枚以上提出することはできません）。

<春～夏学期（春学期または夏学期）開講科目>

番号	授業科目名	単位数	備考
1	アーカイブズの世界に触れる	2	
2	アカデミック・ライティング入門 A	2	
3	アカデミック・ライティング入門 B	2	
4	飯館村環境放射線研修	2	
5	池島プロジェクト	2	
6	「囲碁」で論理的思考を養おう	2	
7	イノベーション思考	2	
8	インターネットを使って情報発信しよう	2	
9	インドネシアの歴史と社会	2	
10	Introduction to Laser Engineering	2	
11	宇宙への旅：材料の役割	2	
12	英語で考える	2	
13	英語の科学番組をインターネットで聞く	2	
14	映像表現入門	2	
15	エネルギーと環境	2	
16	大阪大学リーダーズ・アカデミー	2	
17	化学実験の基礎	2	
18	科学者という仕事を考える	2	
19	化学フロンティア I	2	
20	化学フロンティア II	2	
21	化学フロンティア III	2	
22	化学フロンティア IV	2	
23	化学フロンティア VI	2	
24	化学フロンティア IX	2	
25	確率モデルとその応用 I	2	
26	楽器を作ろう	2	
27	カフェの対話法	2	
28	共生の人間学入門セミナー	2	
29	キラルテクノロジーの基礎	2	
30	口の中で機能を支えるマテリアル	2	
31	暮らしの中の放射線	2	
32	Global Citizenship Seminar	2	
33	芸術を通して脳科学を学ぼう	2	
34	現象と数理モデル I	2	
35	建築・町を見る	2	
36	国際協力と人類学	2	
37	子どもの現在	2	
38	壊れる/壊す/創る	2	
39	コトラクブリッジで考える力をつけよう	2	
40	最先端の情報システム	2	
41	裁判員裁判を考える	2	
42	材料の化学	2	
43	材料プロセス入門	2	
44	様々な科学でみられる数理と応用 I	2	
45	産業革命はなぜイギリスで始まったのか	2	
46	システム・制御の新しいパラダイム	2	
47	自然の読み方	2	
48	実践グローバルリーダーシップ	2	
50	自分のウェブページを作ろう	2	
51	ジェロントロジーを学ぶ	2	
52	社会科学における数学的方法	2	
54	数学の楽しみ 1 A	2	
55	数学の楽しみ 1 B	2	
56	数学の楽しみ 1 C	2	
57	数学の楽しみ 1 D	2	
58	数理生物学入門	2	
59	数理モデリングの実践	2	
60	スマート社会を実現する情報システム	2	
61	生物化学工学の未来探訪	2	
62	生物工学入門	2	
63	精密科学の世界 I	2	
64	精密科学の世界 II	2	
65	生命と機械の融合を目指したものづくり	2	
66	臓器移植の語り	2	
67	大学教員という仕事	2	
68	大規模災害と危機管理を考える	2	
69	多文化コミュニケーションセミナー I	2	
70	多文化コミュニケーションセミナー I	2	
71	多文化コミュニケーションセミナー I	2	
72	多文化コミュニケーションセミナー I	2	
73	多文化コミュニケーションセミナー I	2	
74	蛋白質科学入門 I	2	
75	知能とコンピュータ	2	

番号	授業科目名	単位数	備考
76	Discovery Seminar：はじめてのリサーチ	2	
77	哲学の森	2	
78	電子・イオンが創るエネルギー技術	2	
79	電子・光科学への招待	2	
80	特殊相対論から量子色力学まで	2	
81	ナノサイエンス	2	
82	ナノテクノロジーが拓く量子的世界	2	
83	ナノテクノロジーの最前線	2	
84	ナノの科学技術最前線	2	
85	ナノマンを考える	2	
86	21世紀の難問を総合的に考える	2	
87	ネットを知り、ネットを使いこなす	2	
88	脳と行動	2	
89	博物学の世界を覗く	2	
90	博物館体験コース	2	
91	はじめてのアカデミック・ライティング	2	
92	発明・発見??	2	
93	ピアサポート入門	2	
94	光と物質とエネルギー	2	
95	光とプラズマ	2	
97	非線形力学入門	2	
98	人を動かす仕掛けの仕組み	2	
99	ビブリオバトル入門	2	
100	船と海の科学	2	
101	分子と生命	2	
102	放射光とレーザー	2	
103	放射線と放射能	2	
104	街に出てサイエンスカフェをやってみよう	2	
105	ミクスド・リアリティへの誘い	2	
106	メカトロニクス入門	2	
107	目で観る物性論	2	
108	免疫のしくみ：病気と感染	2	
109	ものづくりと破壊の科学	2	
110	ものづくりフロンティア	2	
111	有機金属化学入門	2	
112	流体现象を解きほぐす数理科学 I	2	
113	量子力学の不思議な世界	2	

<秋～冬学期（秋学期または冬学期）開講科目>

番号	授業科目名	単位数	備考
201	Academic Writing Seminar I (※)	2	英語による開講科目
202	ITの基礎と応用	2	
203	イノベーションのためのバトス・ロゴス・エトス	2	
204	宇宙物形成の起源	2	
205	大阪の町を読む	2	
206	確率モデルとその応用 II	2	
207	基礎からのアカデミック・スキル	2	
208	キャンパスデザインプロジェクト	2	
209	Critical Thinking Skills Seminar (※)	2	英語による開講科目
210	経営者と学ぶリーダーシップ	2	
211	現象と数理モデル II	2	
212	現代社会と著作権	2	
213	Contemporary Japan Seminar	2	英語による開講科目
214	様々な科学でみられる数理と応用 II	2	
215	事業戦略と知的財産マネジメント	2	
216	社会・技術の変容とアートの役割	2	
217	数学の楽しみ 2 A	2	
218	数学の楽しみ 2 B	2	
219	数学の楽しみ 2 C	2	
220	数学の楽しみ 2 D	2	
221	数理医学入門	2	
222	相対論的ゲームを作る	2	
223	多文化コミュニケーションセミナー II	2	
224	多文化コミュニケーションセミナー II	2	
225	多文化コミュニケーションセミナー II	2	
226	多文化コミュニケーションセミナー II	2	
227	Presentation Skills Seminar (※)	2	
228	平和研究入門	2	
229	街に出てサイエンスカフェをやってみよう	2	
230	リーダーシップを考える	2	
231	流体现象を解きほぐす数理科学 II	2	
232	ロボットを通して人を知る	2	

※G30（人間科学コース）の英語による開講科目

## 4.4 健康・スポーツ教育科目

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数		備考
健康・スポーツ 教育科目	1単位	スポーツ実習A	1	◎	
	1単位	スポーツ科学	1	○	
		健康科学実習A	1	○	
		健康科学	1	○	
	—	スポーツ実習B	1	*	卒業要件の「その他」の単位となります。

履修にあたっては、「履修コース一覧表」、「履修コース概要」を参考にし、「健康・スポーツ教育科目コース選択希望届」に希望するコース番号を記入の上、提出してください。

また、履修登録にあたっては、春～夏学期、秋～冬学期にそれぞれ1科目のみとなります。

スポーツ実習Bは、卒業要件の「その他」の単位となります。2年次（春～夏学期）木曜4限、2年次（秋～冬学期）水曜4限に開講します。

## 履修コース一覧表

コース番号	1年次（春～夏学期）	1年次（秋～冬学期）	2年次（春～夏学期）	2年次（秋～冬学期）
01	健康科学	スポーツ実習A	スポーツ実習B	スポーツ実習B
02	スポーツ実習A	健康科学		
03	スポーツ実習A	健康科学実習A		
04	スポーツ科学	スポーツ実習A		

## 履修コース概要

履修コース概要の担当者、種目等は変更される場合があります。

初回の授業は第一体育館に集合してください（更衣不要です）。体育館入口で靴を脱ぎ、下足箱に入れて中に入ってください。

雨天の場合、傘置場での取り間違いを防ぐため、レジ袋を持参し傘を袋に入れ、中へ持って入ってください。

初回の授業を欠席した場合、必ず健康体育研究棟・資料室へ来てください。空きのあるクラスへ登録します。

## 【理学部の履修コース(金曜・3限)】

コース番号	授業科目			コース概要
	1年次（春～夏）	1年次（秋～冬）	2年次（春～夏）	
			2年次（秋～冬）	
01	健康科学 - 定員45名 - (金本)	スポーツ実習A - 定員225名 - (古和・卓球) (中原・バスケットボール) (村上・バレーボール) (松尾・ソフトボール) (小笠原・ハンドボール) (川窪・太極拳)	【自由科目】 スポーツ実習B [自由科目欄参照]	1年次の春～夏学期では主として健康科学に関する講義や実験を行います。 1年次の秋～冬学期では各種のスポーツを中心とした実習を行います。
02	スポーツ実習A - 定員135名 - (古和・卓球) (村上・バレーボール) (川窪・太極拳)	健康科学 - 定員45名 - (金本)	【自由科目】 スポーツ実習B [自由科目欄参照]	1年次の春～夏学期では各種のスポーツを中心とした実習を行います。 1年次の秋～冬学期では主として健康科学に関する講義や実験を行います。
03	スポーツ実習A - 定員135名 - (古和・卓球) (村上・バレーボール) (川窪・太極拳)	健康科学実習A - 定員90名 - (角田) (内藤)	【自由科目】 スポーツ実習B [自由科目欄参照]	1年次の春～夏学期では各種のスポーツを中心とした実習を行います。 1年次の秋～冬学期では健康やフィットネスに関する実習、ならびに軽スポーツを行います。
04	スポーツ科学 - 定員225名 - (松尾・ソフトボール) (橋詰・サッカー) (小笠原・ハンドボール) (市谷・バスケットボール) (角田・テニス)	スポーツ実習A - 定員225名 - (古和・卓球) (中原・バスケットボール) (村上・バレーボール) (松尾・ソフトボール) (小笠原・ハンドボール) (川窪・太極拳)	【自由科目】 スポーツ実習B [自由科目欄参照]	1年次の春～夏学期ではチーム球技を中心としたスポーツ科学に関する実習や講義を行います。 1年次の秋～冬学期では各種のスポーツを中心とした実習を行います。

## 健康処方の開講時限

開講時限	授業科目（担当教員）
1年次（春～夏）・木曜3限	スポーツ実習A（坂東 隆男）
1年次（秋～冬）・木曜2限	スポーツ実習A（金本 隆司）
1年次（秋～冬）・金曜2限	スポーツ実習A（小笠原一生）

障がいにより通常の健康・スポーツ教育科目授業の履修が困難な場合、履修手続の前に所属学部の教務担当係に連絡してください。

学期中に障がい等が発生した場合には、ただちに担当教員に連絡してください。

## 自由科目

キャンパス	年次（学期）・曜日時限	授業科目（担当教員）	受講定員	対象学生の目安
豊中	2年次（春～夏学期）・木曜4限	スポーツ実習B（島本 英樹）	45名	所定単位修得後も積極的にスポーツおよびフィットネスを実施しようとする学生諸君を対象とする。
	2年次（秋～冬学期）・水曜4限	スポーツ実習B（橋詰 謙）	45名	

4.5 専門基礎教育科目

科目区分	分野	授業科目名	単位数	学科		備考
				数学科 化学科 生物科学科	物理学科	
専門基礎教育科目	数学	基礎解析学 1	3	◎	◎	<p>&lt;数学科・化学科・生物科学科&gt;                      必修科目(◎) 19単位、選択必修科目(※) 4単位、選択科目(○) 2単位以上、計25単位以上を修得してください。                      選択必修科目(※)は、次の履修方法のうちいずれかを選択し、履修してください。                      ただし、大阪大学入学選抜個別学力検査等(第2次試験)において物理を選択した者は、(1)を選択し、履修しなければなりません。</p> <p>(1)「物理学1Aまたは1B」から1科目選択、「物理学2Aまたは2B」から1科目選択、計2科目(4単位)を修得してください。</p> <p>(2)「物理学序論1及び2」の計2科目(4単位)を修得してください。</p> <p>&lt;物理学科&gt;                      必修科目(◎) 23単位、選択科目(○) 2単位以上、計25単位以上を修得してください。</p> <p>注1) 専門基礎教育科目のうち、左表の授業科目を、理学部コア科目と呼びます。</p> <p>注2) 選択科目において、2単位を超えて修得した単位は、4単位を限度として専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。この場合において、専門教育科目の単位に算入された単位は、「その他」科目の単位に算入できません。</p>
		基礎解析学 2	2	◎	◎	
		線形代数学 1	2	◎	◎	
		線形代数学 2	2	◎	◎	
		確率・統計	2	○	○	
	物理学	物理学 1 A	2	※	◎	
		物理学 1 B	2	※		
		物理学 2 A	2	※	◎	
		物理学 2 B	2	※		
		物理学序論 1	2	※		
		物理学序論 2	2	※		
		現代物理学入門	2	○	○	
	化学	基礎化学 1	2	◎	◎	
		基礎化学 2	2	◎	◎	
		基礎化学 3	2	○	○	
	地学	宇宙地球科学 1	2	○	○	
		宇宙地球科学 2	2	○	○	
	生物学	生物科学コア A	2	◎	◎	
		生物科学コア B	2	○	○	
	実験	自然科学実験 1 数学	1	◎	◎	
		自然科学実験 1 物理	1	◎	◎	
		自然科学実験 1 化学	1	◎	◎	
		自然科学実験 1 生物・地学	1	◎	◎	
		自然科学実験 2 物理	1	○	○	
		自然科学実験 2 化学	1	○	○	
		自然科学実験 2 生物	1	○	○	
		自然科学実験 2 地学	1	○	○	
	化学※	Introductory Chemistry 1	2	*	*	
		Exercise Session (Introductory Chemistry 1)	2	*	*	
		Introductory Chemistry 2	2	*	*	
Exercise Session (Introductory Chemistry 2)		2	*	*		
必要単位数				25	25	

配当年次・学期については、各科目のシラバスに記載していますので注意してください。

他学部配当の専門基礎教育科目の修得した単位は、「その他」科目の単位に算入することができます。他学部配当の科目については、当該学部の「履修の手引」で確認してください。ただし、次の科目の単位は「その他」科目の単位に算入できません。

[人間科学部・文学部・法学部・経済学部・外国語学部配当]

- ・ Japan in the World
- ・ Anthropology and Contemporary Global Issues
- ・ Introduction to Social Psychology
- ・ Politics in Post-War Japan
- ・ Media Sociology
- ・ Cross Cultural Psychology

[基礎工学部・工学部配当]

- ・ Introductory Physics 1
- ・ Introductory Physics 2
- ・ Basic Physics Experiments
- ・ Introductory Chemistry Experiments
- ・ Basic Biology Experiments

## 5. 理学部授業時間表

2018年度 春学期・夏学期

	月	火	水	木	金
1	生物科学コアA 【必修】	基礎解析学1 【必修】	基礎教養1【選 択】	実践英語【必 修】	基礎教養1, 現代 教養, 先端教養, 国際教養1, 情報 処理【選択】
2	第2外国語(英・ 中), 国際教養2 (独・仏)【必 修】	基礎化学1【必 修】	基礎教養1, 現代 教養【選択】	線形代数学1 【必修】	大学英語【必 修】
3	物理学1A/1B/序 論1【必修】	第2外国語(独・ 仏), 国際教養2 (英・中)【必 修】	自然科学実験1 【必修】	専門科目	健康・スポーツ 【必修】
4	情報活用基礎 【必修】	宇宙地球科学1 【選択】		専門科目	基礎解析学1 【必修】
5	基礎教養1, 現代 教養, 先端教養, 国際教養1, 大学 英語(上級)【選 択】	基礎教養1, 現代 教養, 国際教養1, 生物学入門(生の み)【選択】		現代教養, 先端教 養, 生物学入門 (生のみ)【選 択】	基礎教養1, 国際 教養1【選択】

2018年度 秋学期・冬学期

	月	火	水	木	金
1	宇宙地球科学2 【選択】	現代物理学入門 【選択】	基礎教養1, 現 代教養, 先端教 養【選択】	実践英語【必修】	基礎教養1, 現 代教養, 先端教 養, 国際教養1 【選択】
2	第2外国語 (英・中), 国 際教養2(独・ 仏)【必修】	基礎解析学2 【必修】	基礎教養1, 現 代教養, 先端教 養, 国際教養1, 情報処理【選 択】	線形代数学2【必修】	大学英語【必 修】
3	基礎化学2【必 修】	第2外国語 (独・仏), 国 際教養2(英・ 中)【必修】	自然科学実験1 【必修】	専門科目	健康・スポーツ 【必修】
4	専門科目	生物科学コアB 【選択】		専門科目	生物学実験 (生物科学 科生物科学 コース) 【必修】
5	基礎教養1, 現 代教養, 先端教 養, 国際教養1, 大学英語(上 級)【選択】	基礎教養1, 現 代教養, 先端教 養, 国際教養1 【選択】		現代教養, 先端教養 【選択】	基礎教養1, 現 代教養, 先端教 養, 国際教養1, 大学英語(上 級)【選択】

[1] ピンク色の枠は、必ず履修しなければならない時間枠(必修科目)です。

[2] 黄色の枠は、選択科目です。配当科目(受講ができる授業)がある時間枠で、選択可能です。各自の計画により、履修をせず空き時間にする  
こともできます。時間表やシラバスの他、卒業要件単位数一覧表を確認し、他の曜日時限の開講科目との兼ね合いを考えて決定してください。

[3] 灰色の枠は、所属学部・学科の専門科目です。

専門科目の履修方法は「学部別履修指導」の当日や所属学部の教務窓口で確認してください。

[4] 学部・学科別授業時間表はあくまで目安ですので、具体的な科目名や担当教員名は、必ずKOANで確認してください。

## 6. クラス編成について

学生の皆さんの修学を効果的に行うため、次のとおりクラスを設けています。

このクラス編成は、履修指導等を行う際の基本クラスとなります。

学修の助言、履修指導その他学生個人の諸問題等に関する相談相手として、学部の専任教員がクラスごとにクラス担任として、その任に当たることになっています。

学籍番号欄(入学年度及び個人番号に当たる数字(下5桁))は空欄となっていますが、4月4日(水)に、全学教育推進機構ピロティ掲示板(A棟とB棟の間)に『平成30年度入学者のクラス編成』として掲示しますので、各自で必ずどのクラスに当たっているかを確認してください。

学科	クラス	学籍番号(下5桁)	ク ラ ス 担 任		
			教員名	所属(講座)	連絡先
数学科		18001～	高橋 篤史	代数学	豊 5304
物理学科	1組	18001～	兼村 晋哉	基礎物理学講座	豊 5340
	2組	～	藤田 裕	宇宙惑星進化学講座	豊 5484
化学科	1組	18001～	久保 孝史	構造有機化学	豊 5384
	2組	～	奥村 光隆	量子化学	豊 5404
生物科学科(生物科学コース)		18001～	小布施 力史	染色体構造機能学	豊 5821
生物科学科(生命理学コース)		18001～	古屋 秀隆	学際グループ	豊 5817

※電話を学外から利用する場合は、豊××××は06-6850-××××をダイヤルしてください。

## 7. 履修手続

全学共通教育科目の履修（受講）に当たっては、定められた手続に従って履修科目の申請・登録（履修登録）を行わなければなりません。履修登録とは、授業を受講する意思があることを示すもので、その授業を受講し、単位を修得するための条件となります。

**履修登録が【定められた期間のうちに】【正確に】行われていないと、その授業科目の履修及び試験を受けることができません**ので、下記の諸点に注意して誤りのないように手続を行う必要があります。

なお、以下の説明は各科目の配当年次・学期における履修手続のものとなります。再履修等の場合には履修申請手続の手順が異なる場合がありますので、必ず「7.3 再履修等の手続」を確認してください。

補足：授業の履修計画について

履修登録にあたっては、履修したい授業を決定しなければなりません。「授業時間表」のとおり、特に1年次のうちは、卒業要件単位に基づき、ある程度履修できる授業やクラスは決まっています。各自が所属する学部・学科の各曜日時限に記載されている科目が、履修が可能または必ず履修しなければならない科目であり、これらの科目を「正規配当」科目と呼びます。1年次における履修登録は、原則としてその年次・学期に「配当されている」科目のうち、どの科目を履修するのか、また、クラスを選択できる場合にはどのクラスを選ぶのか等の希望を表明するという手続になります。

「配当されていない」科目は、その年次・学期では履修希望の登録をすることはできません。

科目の属性（必修や選択、希望者抽選制等）によって、登録の方法が異なりますので、次頁以降の項目をよく確認してください。

**全学共通教育科目にかかる進級・卒業や研究室配属時の要件については、所属の学部教務担当係に確認してください。**

## 7.1 履修登録の原則について

全学共通教育科目の履修登録は原則として (1) 学務情報システムKOAN (Web) から各自で行いますが、一部の科目では、(2) 必修やクラス割り当てが自動的に決まっています履修希望の登録の必要がない科目、(3) 授業開始前あるいは第1回目の授業の際に履修希望届(所定用紙)を提出する科目 がありますので注意してください。また、いずれの場合も履修登録がされているかについては、KOAN (Web)の履修登録・登録状況照会により必ず確認してください。履修登録方法とその対象科目は以下のとおりです。

履修登録方法	KOAN (Web)による履修登録及び確認							書類提出等による登録		
	(1)履修希望を登録			(2)自動的に登録(手続不要)				(3)事前、あるいは授業1回目書類提出		
科目区分等	教養教育	外国語	専門基礎	教養教育	外国語	専門基礎	情報処理	基礎セミナー	健康・スポーツ	情報処理
	基礎教養 現代教養 先端教養 国際教養1 ※例外有	大学英語 専門英語 選択外国語 ※例外有	選択科目	国際教養2 ※例外有	実践英語 総合英語 第2外国語 ※例外有	必修科目	必修科目	全て	全て	選択科目
確認方法(一次)	KOAN (Web)による履修登録・登録状況照会により確認し、必要に応じて先着順の登録期間に科目を追加登録・削除							ピロティ 掲示板	1回目の授業	
最終確認	KOAN (Web)による履修登録・登録状況照会により確認									

詳細を以下に説明します。

### 7.1.1 履修希望を登録する科目・・・(1)

次項の「7.1.2 自動的に登録される科目」および「7.1.3 履修希望届等(所定用紙)の提出による履修登録を行う科目」以外の授業科目は、KOAN (Web)により履修登録を行います。KOANによる全学共通教育科目の受講科目の決定は、以下の2段階により行われます。

①事前履修希望登録	抽選により受講の可否が決定する科目について、希望順位を含めて【履修希望の登録】を行います。 希望の順位付けや、選択科目の履修希望を登録します。
-----------	--

### ～抽選処理～

希望者数が定員を超えている場合、

①の希望順位や登録内容を基に抽選し、当選者のみ履修登録が行われます。  
抽選の結果は、KOANの「履修登録・登録状況照会」画面で確認できます。

②「履修追加登録」 (「先着順登録」)	希望する科目の抽選にはずれてしまった場合に、別の科目を【追加で履修登録】したり、都合が悪くなった科目を【削除】したりする(※)ことができます。 ※追加で履修登録ができるのは、定員に空きがある授業科目だけです。 科目ごとに定められた定員まで先着順で登録できます。 ※以下の科目は、この期間中でも削除できません。 ・「国際教養2(特別外国語演習は削除可)」 ・「外国語教育科目(各上級科目、英語各訓練コースは削除可)」 ・「専門基礎教育科目(理系)各実験科目」
------------------------	--

登録方法の詳細については、全学教育推進機構HPに掲載している「KOAN（共通教育関連）、大阪大学CLE、無線LANマニュアル（[http://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/koan-manual\\_pdf/](http://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/koan-manual_pdf/)）」を併せて参照してください。

### 7.1.2 自動的に登録される科目・・・(2)

以下の科目を正規の配当年次・学期で履修する場合は、履修すべき科目が自動的に割り当てられますので、登録手続きは不要です（履修登録期間までに事前に登録されています）。

科目区分等	自動登録対象	例外（事前履修希望登録を行う必要がある科目）
①国際教養2	右欄以外全て	1年次（春～夏）：ドイツ語、日本語及び「特別外国語演習」 1年次（秋～冬）：日本語及び「特別外国語演習」 理学部の学生が「その他」の単位として履修を希望する場合は言語を問わず事前履修希望登録ができます。 2年次（春～夏）：ドイツ語、日本語及び「特別外国語演習」 法学部の学生が「その他」の単位として履修を希望する場合は言語を問わず事前履修希望登録ができます。 2年次（秋～冬）：ドイツ語、英語、日本語及び「特別外国語演習」
②第1外国語の 実践英語	全学部1年次 （春～夏）配当、 医学部医学科	医学部医学科以外の全学部1年次（秋～冬）以降配当
③第1外国語 の総合英語	医学部医学科 外国語学部の1 年次（秋～冬）	外国語学部の1年次（春～夏）
④第2外国語	右欄以外全て	1年次（春～夏）、1年次（秋～冬）：日本語 2年次（春～夏）、2年次（秋～冬）：ドイツ語及び日本語
⑤選択外国語	1年次（秋～冬） 以降の英語以外の 言語（ドイツ語、 フランス語、ロシ ア語、中国語、ラ テン語、ギリシャ 語）	1年次（春～夏）の全言語、 1年次（秋～冬）以降の英語
⑥情報処理教育科目	必修科目	選択科目（KOAN（web）による登録ではなく、所定用紙の提出が必要（次項「7.1.3 履修希望届等（所定用紙）の提出による履修登録を行う科目」参照）
⑦専門基礎教育科目	必修科目	選択科目

※その他、一部教養科目でも必修科目である場合は自動登録の対象となります。

※表中「春～夏」「秋～冬」＝それぞれの学期を指します。

### 7.1.3 履修希望届等（所定用紙）の提出による履修登録を行う科目・・・（3）

希望動機等に基づく選考によって履修者を決定する科目については、KOAN (Web) による登録ではなく、所定用紙の提出が必要となります。発表後、自動的に履修登録が行われますので、KOAN (Web) で登録手続きを行う必要はありません（ただし、登録には発表後1～3週間程度かかりますので、登録されるまでに該当の曜日時限に別の科目を履修登録しないように注意してください）。

提出時期等には、次表のとおり①授業開始前に履修希望届等の申請用紙を提出する場合と、②第1回目の授業で配付される受講申請書を提出する場合があります。

区分	科目	解説
①授業開始前(※)に履修希望届等を提出するもの	基礎セミナー	「基礎セミナー履修希望届」を基にした選考により受講者を決定します。選考結果は、全学教育推進機構ピロティ掲示板で発表します。 なお、基礎セミナーは春～夏学期及び秋～冬学期の各学期1科目しか履修することができません（履修希望届も同時に2枚以上提出することはできません）。
	健康・スポーツ教育科目	「健康・スポーツ教育科目コース選択希望届」に記入したコース希望と過去の運動経験等を基にコースの割り振りを行います。結果は、第1回目の授業時に第一体育館で発表します。
②第1回目の授業で受講申請書を提出するもの	情報処理教育科目の選択科目	情報処理教育科目のうち、選択科目として指定されている科目は、第1回目の授業に出席し、「受講申請書（授業時に配付）」を提出してください。

※1年次の春～夏学期においては、「学部別履修指導」の際に提出してください。

「基礎セミナー履修希望届」及び「健康・スポーツ教育科目コース選択希望届」は『履修の手引<簡略版>』の付録39頁の用紙を使用してください。

### 7.1.4 履修登録の取消について

履修を始めてしばらくしてから、例えば、難度が高かったり、想定していたものと内容が違っていたりした場合、履修登録を「取り消す」ことによって、授業科目の履修を中止することができます。

学期ごとに定められた履修取消期間（授業開始後、3週目頃）に、当該授業科目に係る履修登録を「取り消す」ことができます。履修登録を取り消した授業科目については、学期GPA及び通算GPAの算出から除外します。

GPAに関する詳細は、「8.8 グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度について」を参照してください。

## 7.2 具体的な履修手続方法について

### 7.2.1 1年次の春～夏学期の履修手続

「全学共通教育科目を履修するにあたって必ずすること」、「履修案内ページの閲覧方法について」及び「KOAN（共通教育関連）、大阪大学CLE、無線LANマニュアル ([http://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/koan-manual\\_pdf/](http://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/koan-manual_pdf/))」にて説明しています。必ず事前に熟読し、学部別履修指導での提出物を忘れないようにしてください。また、新入生事前履修希望登録をスムーズに行えるよう準備をしてください。

### 7.2.2 1年次の秋～冬学期以降の履修手続

原則、前学期終了前に学内掲示板や全学教育推進機構ホームページ、KOAN掲示板にて指示を行います。必ず確認のうえ、忘れないように履修登録を行ってください。

## 7.3 再履修等の手続

ここでいう「再履修等」とは、現在の自分の年次及び学期より前の年次・学期に担当されている授業科目を履修することを言います。具体的には、過去の年次・学期で修得できなかった科目を再度履修する場合、あるいは、興味があったが時間割の都合上履修できなかった科目を学年が上がってから履修する場合等です。主な留意点は、以下のとおりです。

#### ①再履修等の場合、他学部の同一名称科目を履修可能である

自分の学部で担当されている科目以外でも履修することができます。

例えば、1年次の春～夏学期で修得できなかった科目を取り直そうとする場合、一部の他学部学生の履修が禁止されている科目（例、「総合英語」、経済学部と外国語学部の「情報活用基礎」等）を除き、他の学部・学科に担当されている同一名称の授業科目を履修することで卒業要件単位とすることができます。

#### ②全ての科目について、事前履修希望登録または履修追加登録手続を行う必要がある

必修科目等、正規配当の履修の場合には登録手続が不要な科目についても、再履修等の場合は、全ての科目において事前履修希望登録または履修追加登録手続を行う必要がありますので注意してください。

ただし、健康・スポーツ教育科目、基礎セミナーや情報処理教育科目等の一部科目では、再履修等でもKOANでの登録ではなく、所定用紙や一回目の授業における別の手続が必要となります。

その他、再履修等に関する具体的な手続方法については、原則、前学期終了前に学内掲示板や全学教育推進機構ホームページ、KOAN掲示板にて指示を行います。

## 7.4 履修登録上の注意点

### 7.4.1 配当外授業科目の履修の禁止及び特例

各自が所属する年次・学部・学科ごとに配当されている授業科目を履修してください。また、学籍番号等でクラスを指定されている場合は、指定されたクラスで履修しなければなりません。同一名称の科目が他の学科等に配当されていても配当外の学生の履修は認められません（配当外授業科目の履修の禁止）。

ただし、再履修等の場合、転学部（学科）を希望する者で希望学科の指定する授業科目を履修する必要がある場合、その他規程等で指定がある場合等、特別な理由がある者については、配当外授業科目であっても履修が認められることがあります。

### 7.4.2 重複受講の禁止

同一授業時限に複数の授業科目を重複して履修することはできません。また、同一名称の科目を複数の授業時限で履修することもできません。

（例. 水曜1限で「日本国憲法」という科目を履修した場合、同じ時間帯に違う科目の履修は当然できず、また、他の時間帯で同じ名称の科目が開講され、副題や内容が違っても2つ目の履修はできない。）

### 7.4.3 修得済み科目の履修の禁止

既に単位を修得した科目について、同一名称の科目を再度履修することはできません（「積重ね科目」を除く）。

（例. 1年次の春～夏学期で「日本国憲法」という科目を履修した場合、1年次の秋～冬学期で同じ名称の科目が開講され、副題や内容が違っても2度目の履修はできない。）

### 7.4.4 受講定員

各授業科目にはその授業科目の性質や使用する教室等を考慮して定員が定められています。

定員を超える受講希望者があった場合は、抽選・選考のうえ受講者を決定します。希望しても受講許可が得られないこともありますので、あらかじめその点も考慮して履修計画を立てておく必要があります。

### 7.4.5 卒業要件を超える国際教養2及び外国語教育科目の履修について

国際教養2（日本語及び「特別外国語演習」を除く）、大学英語（各上級科目、各訓練コースを除く）、実践英語・専門英語基礎、第2外国語（日本語を除く）及び選択外国語を、卒業要件単位数を超えて修得したい場合は、履修登録時に全学教育推進機構等事務部教務係まで申請してください。

法学部及び理学部において、国際教養2を「その他」に算入する場合は、2単位までは申請不要です。

## 8. 試験及び成績

授業科目の成績評価のため、原則として年次・学期ごとに筆記試験が行われます。筆記試験の代わりにレポート提出、口述試験、実習報告等によることもあります。また、科目によっては平常の成績をもって試験成績に代えることがあります。

受験等に際しては、以下の事項に留意してください。

なお、これらの事項は、原則として、中間、臨時、平常試験等にも適用されます。

### 8.1 受験が認められない場合

- ① 履修登録を行っていない授業科目については、受験資格がありません。
- ② すでに単位を修得した授業科目について再度受験することはできません。

### 8.2 筆記試験受験上の注意事項

- ① 試験は指定された場所（講義室）で受験してください。
- ② 各試験室では監督教員の指示に従って着席してください。
- ③ 試験開始後 20 分以上の遅刻者は、原則として受験できません。
- ④ 試験開始後 25 分間は退室できません。
- ⑤ 一度退室した者は再び入室することができません。
- ⑥ 試験時間は、チャイムまたは監督教員の指示に従ってください。
- ⑦ 受験に際しては必ず学生証を机上の左上に提示してください。
- ⑧ 学生証を携帯しない者は受験できません。万一学生証を忘れてきた場合は、前もって教務係で仮受験票の交付を受けてください。（付録「学生の諸手続について」参照）
- ⑨ 受験者名表が配付された場合には必ず記名してください。
- ⑩ 答案用紙は各自必ず監督教員に提出し、提出後は速やかに退出してください。  
なお、試験放棄の意志のある場合等も答案用紙は持ち帰らないでください。
- ⑪ 受験中における私語及び物品の貸借は一切禁止します。試験中に消しゴム等を机から落とした場合、自分で拾うのではなく、挙手して監督教員の指示に従ってください。
- ⑫ 参照（使用）を許可された場合を除き、筆記用具、時計、学生証以外の書籍・ノート等はカバン・袋類にしまって、机の下に置いてください。また、電子辞書、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末及び IC レコーダー等の電子機器類は必ず電源を切り、カバン・袋類にしまってください。身につけることは厳禁です。
- ⑬ 机の周りに持参物以外のものがあれば、監督教員に申し出てください。
- ⑭ その他の事項については監督教員の指示に従ってください。
- ⑮ 不正行為は絶対に行わないでください。不正行為を行った場合は、その学期の全学共通教育科目の成績評価がすべて無効（不合格）となります。

## 8.3 不正行為と成績評価

筆記試験等(※)において不正行為を行った場合は、その学期の全学共通教育科目の成績評価がすべて無効(不合格)となります。

※筆記試験等とは期末・中間・臨時・平常試験における筆記試験、口述試験、レポート提出、実習報告、作品提出などで、授業担当者が成績評価の対象とするすべてのものを指します。筆記試験、口述試験において、他人の答案やカンニングペーパーなどを見るカンニング、あるいは参照(使用)を許可されていないものやスマートフォンなどの電子機器類を参照(使用)した場合は不正行為となります。また、参照(使用)を許可されていないものやスマートフォンなどの電子機器類を机の上に置いたまま、あるいは身につけていた場合や参照(使用)できる状況にある場合も不正行為とみなされることがあります。

また、レポート提出や実習報告、作品提出にあたって、公表、未公表を問わず、引用先を明記せずに、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配付物の一部又は全部を剽窃(コピー&ペーストなど)した場合は不正行為となります。ただし、不注意のため引用先を明記しなかった場合を除きます。

不正行為を行った学期と無効(不合格)となる成績評価の学期

不正行為を行った学期	無効(不合格)となる成績評価の学期
春学期	春学期、夏学期及び春～夏学期の成績評価
夏学期	
春～夏学期	
秋学期	秋学期、冬学期及び秋～冬学期の成績評価
冬学期	
秋～冬学期	

筆記試験等における不正行為については厳格に対処します。

不正行為によりその学期の全学共通教育科目すべての成績が無効(不合格)になると、学期GPAや通算GPAのみならず、進級や卒業などのその後の学業に多大の影響を及ぼします。

学生諸君は上記について留意のうえ試験等に臨んでください。

## 8.4 追試験

病気その他やむを得ない事由によって試験の一部ないし全部を受験できない（もしくはできなかった）場合は、欠席・試験欠席届を速やかに提出しなければなりません。病気の場合は医師の診断書、その他の場合は理由書とその証明書を添付してください。

全学教育推進機構及び授業担当教員が、追試験実施が妥当であると認めた場合は、追試験を行うことがあります。

## 8.5 レポート提出

提出方法・場所・期間については、授業担当教員の指示に従ってください。（授業中及びレポート掲示等により指示されます。）

提出期間及び受付時間を超えたものは、いかなる理由があっても受け付けられません。また、一度レポートBOXに投入されたレポートの返却・差替はできません。

全学教育推進機構等教務係へのレポートについて

○提出場所 管理・講義A棟2階・全学教育推進機構等事務部教務係内

○提出方法 科目ごとにレポートBOXが用意されます。当該BOXごとの提出にあたっての注意事項を読み、備え付けのレポート受付票を添付し投入してください。

## 8.6 成績

- ① 成績は履修状況と試験等の評点とを総合して判定します。
- ② 成績は「S」「A」「B」「C」「F」の5段階で評価し、「S」「A」「B」「C」を合格、「F」を不合格とします。
- ③ 合格となった授業科目については所定の単位を与え、その授業科目の名称、単位数、修得年度、成績を学籍簿に記載します。一度修得した授業科目の成績は、これを取り消したり、再度履修し直して変更したりすることはできません。

## 8.7 成績結果の誤記入等に関する申立てについて

次の場合は、成績結果の誤記入等に関する申立てを行うことができます。

ただし、成績評価の理由、根拠に関する申立ては受け付けません。

- ① 成績評価が明らかに誤記入（採点ミス、登録ミス）によると思われる場合
- ② 成績評価が明らかに試験等の結果や出席状況などから判断して誤っていると思われる場合（受付期間）

① 第1次受付：成績発表の日から1週間以内（土曜・日曜・祝日を除く）

② 第2次受付：次学期の授業開始の日から2週間以内（土曜・日曜・祝日を除く）

ただし、やむを得ない理由があると認められる場合は、上記①、②の期間以外でも受け付けます。（申立方法）

全学教育推進機構等事務部教務係で配付する「全学共通教育科目成績結果の誤記入等に関する申立書（所定様式）」を同係に提出してください。

## 8.8 グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度について

GPA制度の実施は、学修の状況及び成果を示す指標としてのGPAを算出することにより、各学部において学生の学修意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的とします。

### 8.8.1 GPについて

成績の評価及び各評価に与えられるGPは、以下のとおり定めています。

成績の評価	S (90点以上)	A (80点以上 90点未満)	B (70点以上 80点未満)	C (60点以上 70点未満)	D (60点未満)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

### 8.8.2 GPAについて

当該学期におけるGPA（以下「学期GPA」という。）及び全在学期間におけるGPA（以下「通算GPA」という。）があります。学期GPA及び通算GPAを算出する計算式は以下のとおりです（GPAの算出は、小数点第3位以下を切り捨てるものとします）。

#### 【学期GPAを算出する計算式】

$$\text{学期GPA} = \frac{\text{(当該学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数) の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

#### 【通算GPAを算出する計算式】

$$\text{通算GPA} = \frac{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目で得たGP} \times \text{当該授業科目の単位数) の合計} \text{の総和}}{\text{(各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計) の総和}}$$

### 8.8.3 GPA算出の対象科目について

共通教育系科目、専門教育系科目、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目及びグローバルコラボレーション科目のうち、大阪大学学部学則第10条の7第2項に基づく試験の成績の評価を行う授業科目であって、各学部において卒業要件に算入できる授業科目とします。ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとします。

- (1) 本学在学中に他の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目、又は外国の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目
- (2) 入学前に本学若しくは他の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目、又は外国の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目（科目等履修生として履修した授業科目を含む）
- (3) 本学在学中に大学以外の教育施設等における学修（短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修）を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えられた授業科目
- (4) 大阪大学学部学則第14条から第15条までの規定による編入学等に伴い、本学の授業科目を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目
- (5) 前各号に掲げるもののほか、各学部学科が別に定める授業科目

#### 8.8.4 「履修取消」について

学期の途中で授業科目の履修を中止したい場合は、学期ごとに定められた履修取消期間に、当該授業科目に係る履修登録を取り消すことができます。

履修登録を取り消した授業科目については、学期GPA及び通算GPAの算出から除外します。

なお、履修を取消した授業科目については、GPAから除く授業科目となり、学務情報システム(KOAN)では「W」(Withdrawal)で表示されます。

##### ○履修取消期間

「全学共通教育 年間スケジュール」から確認してください。

※全学共通教育科目の期間であり、専門教育科目とは時期が異なる場合があります。

##### ○履修取消方法

上記期間内にKOANの履修登録画面から操作可能です。この期間以外の「取消」はできません。

なお、GPAに係る「取消」のみであり、履修削除や追加登録はできません。

履修取消を行わず、履修した科目が不合格になるとGPAの値が大幅に下がりますので、注意してください。

#### 8.9 大阪大学全学教育優秀賞について

大阪大学では、学部2年次学生(インターナショナルカレッジ(学部英語コース)に在籍する学生は3年次学生)を対象に教養(共通)教育において優秀な学業成績をあげた学生を表彰する制度があります。選考は全学共通教育科目の学業成績により行い、12月頃に受賞者を発表します。詳しくは全学教育推進機構のホームページをご覧ください。

(問い合わせ先) 全学教育推進機構教務係(管理・講義A棟2階)



## 10. 授業改善のためのアンケートについて

全学教育推進機構では、「授業改善のためのアンケート」を実施しています。このアンケートは、全学共通教育科目のカリキュラムをよりよくしていくために行なわれるものです。

学生のみなさんには、必ず回答するよう、ご協力をお願いいたします。

なお、このアンケートは、学務情報システム（KOAN）の Web アンケートにより行なわれますので、回答に際しては、各授業担当教員の指示に従って入力してください。

### 回答要領

#### 1. 対象科目

全学共通教育科目（基礎教養科目、現代教養科目、先端教養科目、国際教養科目、外国語教育科目、情報処理教育科目、基礎セミナー、健康・スポーツ教育科目、専門基礎教育科目）のうち、当該学期にアンケート対象となる授業科目を別途掲示します。

#### 2. 回答期間

別途掲示を参照

#### 3. 回答場所

PC・スマートフォンから学務情報システム（KOAN）にアクセスして回答してください。本冊子付録「サイバーメディアセンター教育用端末設置状況一覧・サービス時間」の学内端末機も利用できます。学外からのアクセスも可能です。

#### 4. 回答方法

全学教育推進機構ホームページ、または掲示等を参照のうえ、Web 画面上の指示に従って回答してください。

#### 5. 回答に際しての注意事項

- ①大学から配付されているアカウントとパスワード（KOAN にログインするもの）でログインしてください。この手続きは、あなたが本学在学学生であることを認証するためだけのものであり、アンケートにどのように回答したかはわからないようになっています。回答が成績に影響することは一切ありません。
- ②各学期に受講している授業科目のすべてについて、授業科目ごとに別々に回答してください。（例：10 科目受けている人は、10 回の回答をお願いします。）
- ③はじめの部分でチェックする項目のうち、授業科目名と教員名は、まちがわないように注意してください。
- ④自由記述欄記入上の注意：人権侵害にあたる記述は、無効とし削除します。このアンケートは、授業改善のために行なうものであることを理解し、そのような記述をしないようお願いいたします。

## 11.1 交通機関運休等の場合の授業の取扱について

### 11.1 交通機関運休の場合の取扱

ストライキ、事故、災害等により交通機関が運休となった場合、全学教育推進機構では、当機構への通学路線のうち特に「阪急電車」が運休した場合に限って次のとおり取り扱います。

運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を超過しても解除されない場合	全日授業休業

### 11.2 気象警報発令時の取扱

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」又は「特別警報」が発令された場合、授業は休講とします。

なお、同警報が解除された場合の取扱いは次のとおりです。

◇全部局（全学教育推進機構を含む）

警報解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を超過しても解除されない場合	全日授業休業

※ただし、外国語学部（旧外国語学部を含む。）及び言語文化研究科言語社会専攻（旧言語社会研究科を含む。）については、午後3時以前に解除された場合、第6限及び第7限の授業を実施します。

**【注意】**解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によります。

「特別警報」とは通常の「警報」の発表基準をはるかに超える数十年に一度の大雨、大雪、暴風、暴風雪、波浪、高潮など、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合に発令されます。

### 11.3 午前9時以降に上記「11.1 交通機関運休」「11.2 気象警報発令」がある場合

授業時間中に発令等があった場合は、その授業はそのまま行い、次の時間帯以降の授業は休講とします。

# 付 録

- ◎学生の諸手続について・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
- ◎豊中キャンパス構内図・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
- ◎全学教育推進機構建物・講義室等配置図・・・・・・・・・・47
- ◎大阪大学全学共通教育規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
- ◎よくある質問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

## 学生の諸手続について

1. 届と願：学生の諸手続には大別して次の2種類があります。

- ① 届………所定の用紙（または形式）に記入して提出すれば完結するもの。
- ② 願………単に提出するだけでなく、必ず許可を受けなければならないもの。

下記事項について十分留意のうえ、手続は確実に行ってください。

2. 修学等に関すること：全学教育推進機構等事務部教務係

[窓口業務時間 8：30～16：30（休憩時間 11：35～12：20）]

または、所属学部の教務担当係等（※詳細は下表のとおり）

事項	手続窓口等	摘要
欠席・試験欠席届	全学教育推進機構等事務部教務係	以下に挙げる理由により <b>全学共通教育科目</b> の授業を欠席した時、及び試験を受験できなかった場合。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校感染症による出席停止</li> <li>・忌引き（3親等以内、要証明書・会葬礼状（日付が確認できるもの）等）</li> <li>・裁判員の選任手続及び職務（要証明書）</li> <li>・居住地及び通学経路に係る特別警報の発令</li> <li>・「教育（養護）実習」及び「介護等の体験」（要証明書）</li> <li>・疾病・負傷等の他やむを得ない理由（要診断書・理由書・証明書）</li> </ul> <b>※ただし、課外活動は原則としてやむを得ない理由に該当しません。</b>
仮受験票		全学共通教育科目の試験時に学生証を忘れてきた場合。
通学証明書		定期券は学生証と対の通学定期乗車券発行控で購入できますが、特別に交通機関への証明書が必要な場合はその都度願い出てください。 <b>※2年次の秋学期以降は所属学部の教務担当係に願い出てください。</b>
改姓（改名）届	所属学部教務担当係	変更の事実を証明できるもの、例えば住民票記載事項証明書等（外国人の場合は外国人登録証明書）の提示が必要です。
休学願		3カ月以上にわたって欠席する場合。（疾病・負傷の場合は診断書が必要）休学しようとする日から1カ月以上前に手続きをしてください。
復学願		休学の理由が解消し、履修を再開しようとする場合、復学しようとする日から1カ月以上前に手続きをしてください。
退学願		退学する学期の授業料を完納しなければ許可されません。退学しようとする日から1カ月以上前に手続きをしてください。
住所変更	KOAN	変更後速やかにKOANに登録してください。
保護者変更		
保護者住所変更		
学生証再発行	学生センター	学生証を紛失・破損した場合、学生センターで再発行します。
在学証明書	証明書自動発行機	証明書自動発行機によって発行します。
成績証明書		

## 3. 学生生活等に関すること：学生センター

事項	摘要
日本学生支援機構第一種・第二種奨学金 (外国人留学生を除く)	<p>入学前に貸与型奨学金【予約採用】、給付型奨学金を申込済の方は、4月上旬に採用候補者決定通知書を大学に提出してください。入学後に貸与型奨学金【在学採用】申請希望者は、4月中旬までに手続きを行ってください。詳細は、大阪大学ホームページ(Google、Yahoo等で[大阪大学 奨学金]と検索、3月下旬更新)を確認ください。</p> <p>○問い合わせ先：豊中学生センター（学生交流棟2階） E-mail：gakusei-sien-en2@office.osaka-u.ac.jp</p>
地方公共団体及び民間奨学団体奨学金 (外国人留学生を除く)	<p>1) 候補者を選考し大学から推薦する奨学金 事前に登録した者の中から選考し、推薦します。 詳細については、「民間団体等奨学生推薦候補者登録要項」を参照してください。</p> <p>2) 希望者が直接出願する奨学金 募集の都度、KOAN 掲示板にてお知らせします。</p> <p>【大学長印が必要な場合について】</p> <p>◎学部長・研究科長の推薦でも可能な場合は、所属の学部・研究科教務担当係へ問い合わせください。</p> <p>◎直接応募の民間団体等に応募する際に大学長からの推薦書等の発行を希望される方は、下記書類を吹田学生センターに持参ください。 なお、書類発行には10日間ほどの期間を要しますので、必ず余裕を持って申し出てください。</p> <p>&lt;必要書類&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆募集要項の写し</li> <li>◆民間団体等が提出指示している申請書類一式の写し（すべての項目を記載したもの）</li> <li>◆推薦書の原紙</li> </ul> <p>※所見の記載が必要なものは、担当教員等にご自身で依頼してください。</p> <p>○問い合わせ先 吹田学生センター（ICホール1階） TEL：06-6879-7084 Email：gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp タイトルは【民間奨学金の問い合わせ】として、所属及び氏名を必ず記入してください。</p>
授業料免除	<p>免除に関する情報は、大阪大学ホームページ及びKOAN 掲示板でお知らせします。免除の申請に関する手続き及び日程等については、大阪大学ホームページに掲載する「申請要項」でよく確認してください。</p> <p>○問い合わせ先 吹田学生センター（ICホール1階） TEL：06-6879-7088 Email：gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp タイトルは【授業料免除の問い合わせ】として、所属及び氏名を必ず記入してください。</p>

### 学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）

修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とした制度です。

学割証は、以下の目的をもって旅行する必要があると認められる場合のみ発行されます。

- (1) 休暇、所用による帰省、(2) 正課の教育活動、(3) 正課外の教育活動、(4) 就職または進学のための受験等、(5) 見学または行事への参加、(6) 傷病の治療、(7) 保護者の旅行への随行

発行は、証明書自動発行機により年間10枚まで発行されますが、それ以上必要な場合は、所属学部等の教務担当窓口で相談してください。また、学割証の有効期間は発行日から3ヶ月です。

なお、学割証の不正使用（証明された者以外の使用等）は、本人に多額の追徴金が科せられるほか、大学の全学生に対して発行停止となることがありますので、絶対に不正使用は行わないでください。

○問い合わせ先 吹田学生センター（ICホール1階） TEL：06-6879-7088

### 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中（正課中・学校行事中・課外活動中）又は通学中（学校施設等相互間の移動中を含む）に被ったけがに対する保険であり、全学生が加入することになっています。

加入後、事故が発生したとき（正課中・学校行事中は治療日数1日以上、課外活動中は治療日数14日以上、通学中・大学施設内（課外活動除く）は治療日数4日以上が対象）は、速やかに大学生協窓口で手続きをしてください。

なお、教育研究活動中又は通学中の事故でも対象外となる場合がありますので、詳細については「学生教育研究災害傷害保険加入者のしおり」（入学手続き時に配布）を参照してください。

○問い合わせ先

大阪大学生生活協同組合 総務部（豊中福利会館4階） TEL：06-6841-3326

## 4. 証明書自動発行機に関すること

設置場所	利用時間	発行書類
全学教育推進機構 管理・講義A棟2階教務係前	8時30分～17時	・学割証（1人1日3枚、年間10枚まで） ・在学証明書
豊中学生センター2階ホール	8時30分～17時	・成績証明書 ・卒業見込証明書（最終学年次の学生のみ）
吹田学生センター1階ホール		
医学部医学科共通棟1階玄関	8時30分～17時	・学割証を除いて英文の証明書も発行可 ・健康診断証明書（日英併記）
工学部管理棟U1M棟 1階 教務課横	9時～17時	
言語文化研究科・外国語学部 研究・講義棟A棟1階南側玄関	8時30分～17時	

※証明書自動発行機は、月～金曜日（祝日、年末・年始、夏季休業日の指定日を除く）に利用できません。

健康診断証明書は個人によって証明書自動発行機から出力されない場合があります。その場合、詳しくは各キャンパスのキャンパスライフ健康支援センターに問い合わせてください。

上記以外の証明書の発行については、所属学部の教務担当窓口にお問い合わせください。

## 5. 授業料の支払いに関すること

5.1 授業料は、一般金融機関及びゆうちょ銀行（以下「金融機関」といいます。）の「学生本人名義の普通預金口座」から「口座振替」により自動引き落としをいたします（前期分5月、後期分11月）。

そのため、金融機関に学生本人名義の普通預金口座を開設し、「口座振替の手続き」を行う必要がありますので、入学手続き時に配布された説明書のとおり手続きを行ってください。

やむを得ず口座振替で支払いできない場合は、振込依頼書を大阪大学財務部から郵送しますので、金融機関（ゆうちょ銀行は不可）で振込手続（手数料は本人負担）を行なってください。

5.2 所定の期日までに支払手続を行わない場合は、本人及び保護者に督促を行い、相当期間を経過してもなお支払いされない場合には、除籍の手続きがとられます。

## 6. 自転車通学（駐輪場）に関すること

自転車通学をする場合は指定された場所に駐輪し、構内での移動の手段としないでください。指定場所以外に止められた自転車、放置された自転車は強制的に撤去する場合があります。

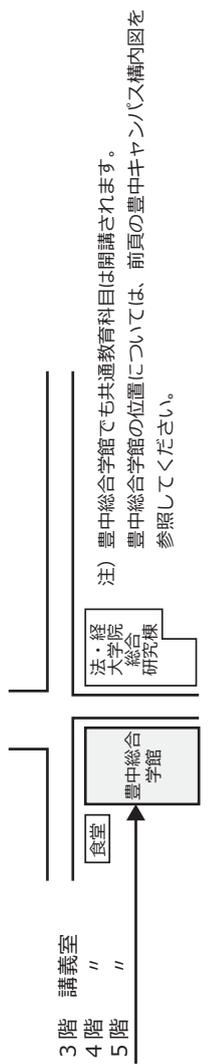
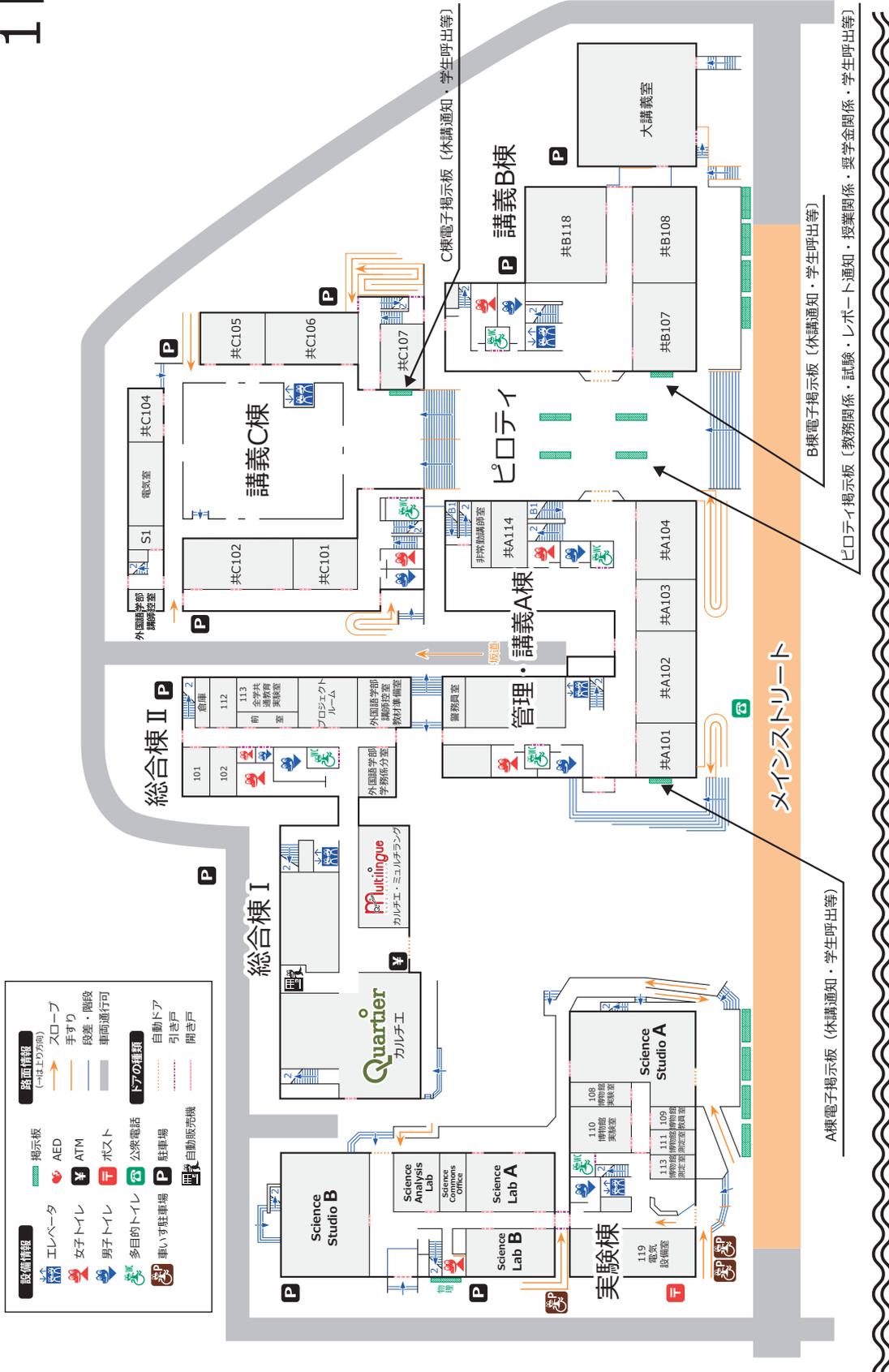
また、阪大坂は自転車の通行が禁止されていますので、ご注意ください。

なお、身体障がいまたは疾病・負傷等により徒歩による通学・階段の昇降が困難な者で、自動車通学（車両入構）を希望する者は、所属学部の教務係に申し出て所定の手続をしてください。

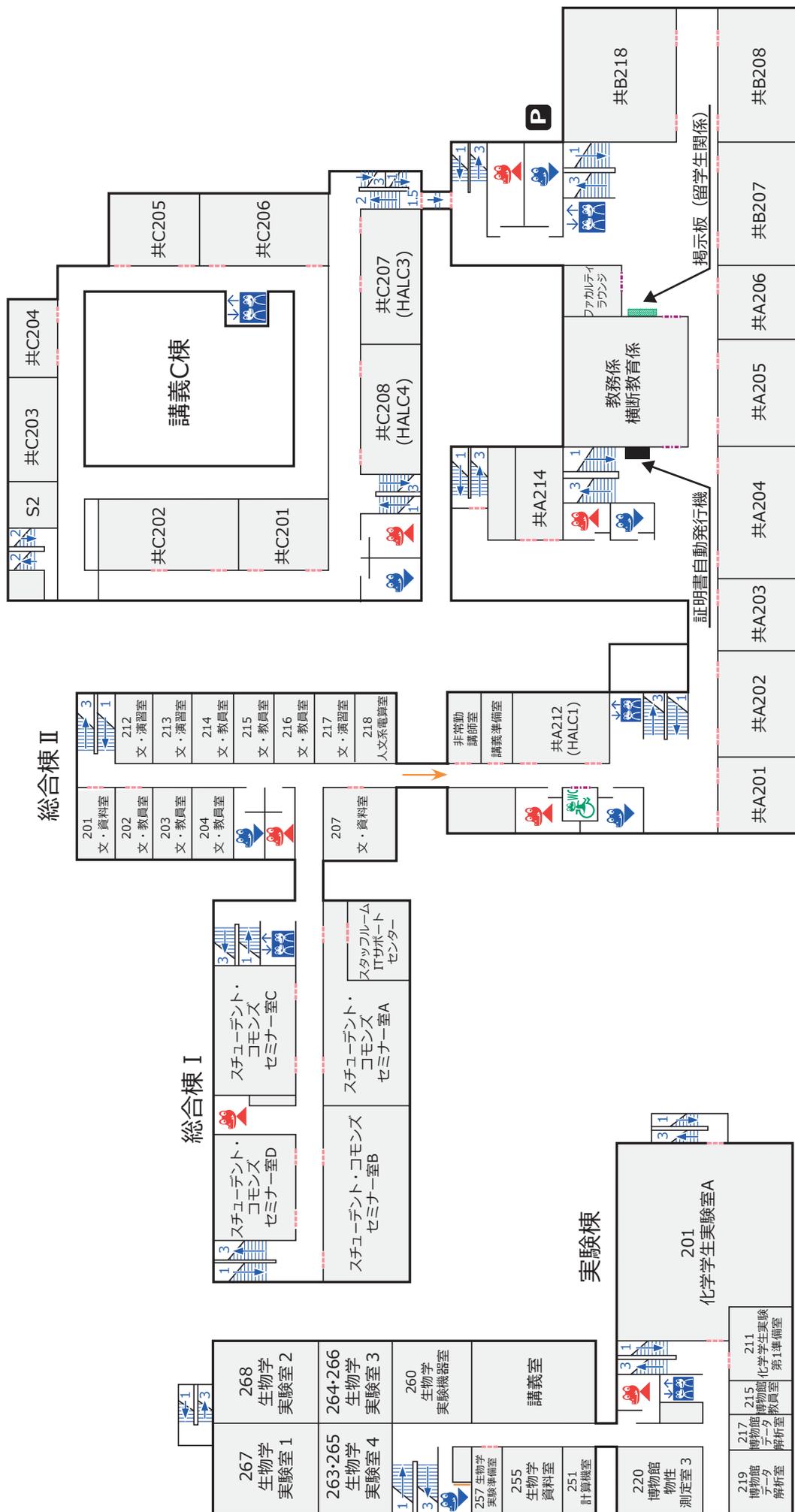


# 全学教育推進機構建物・講義室等配置図

## 1階



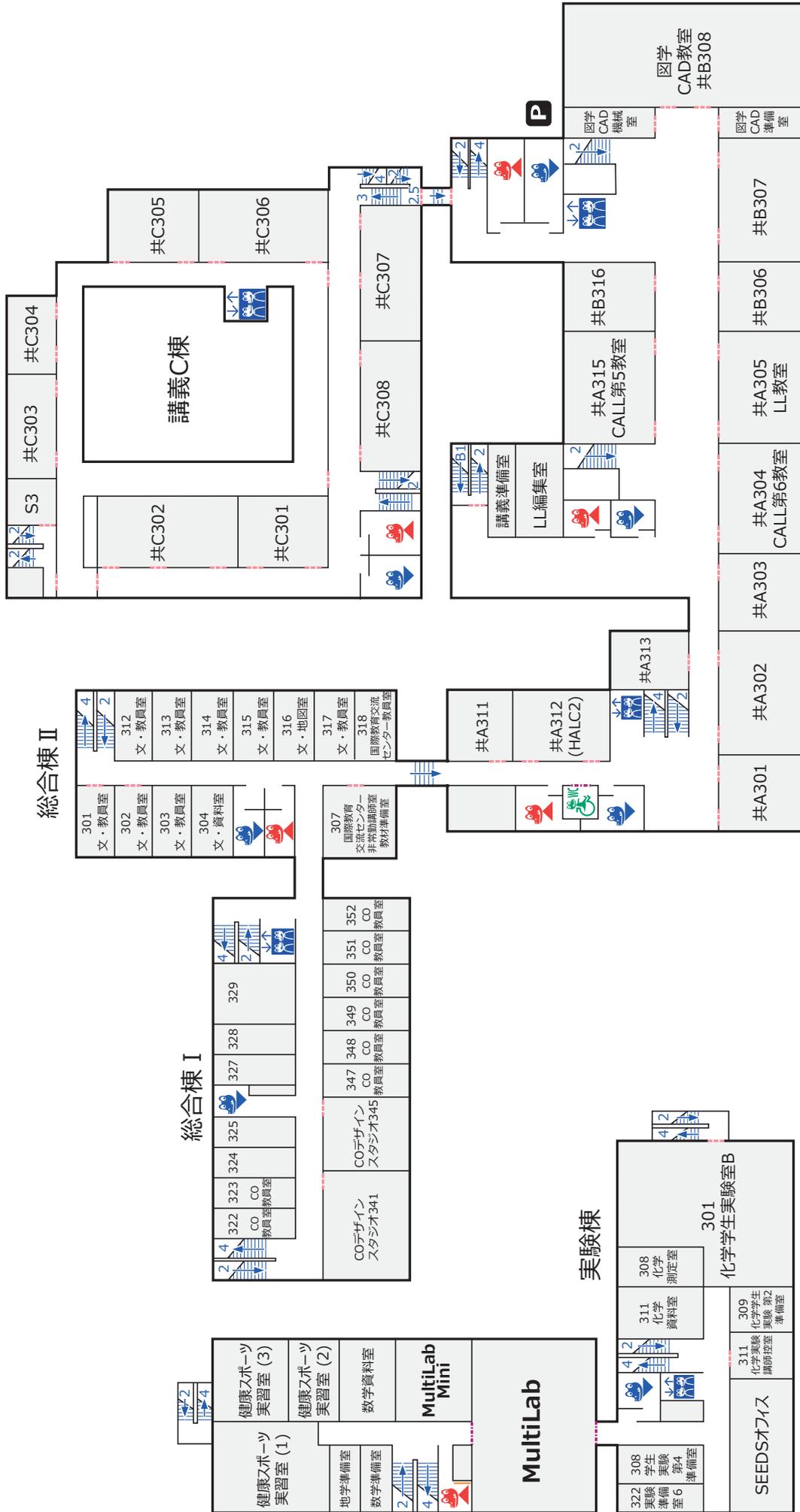
2階



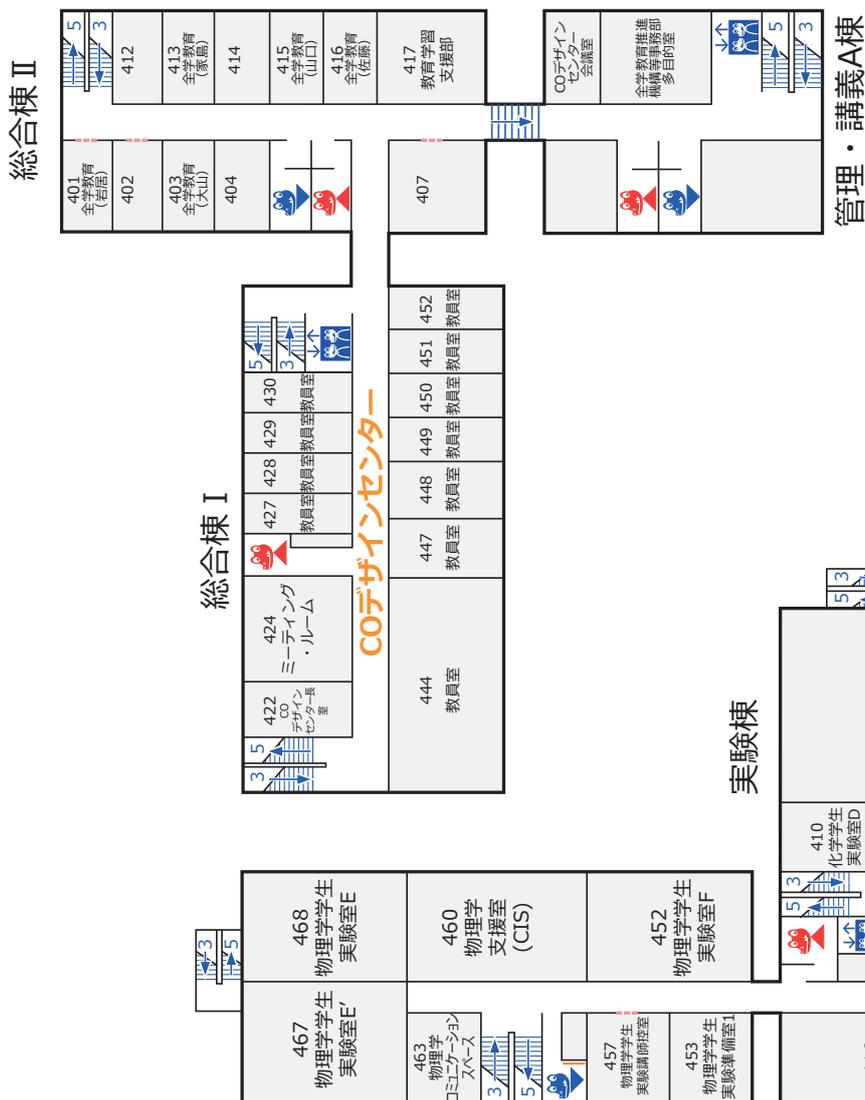
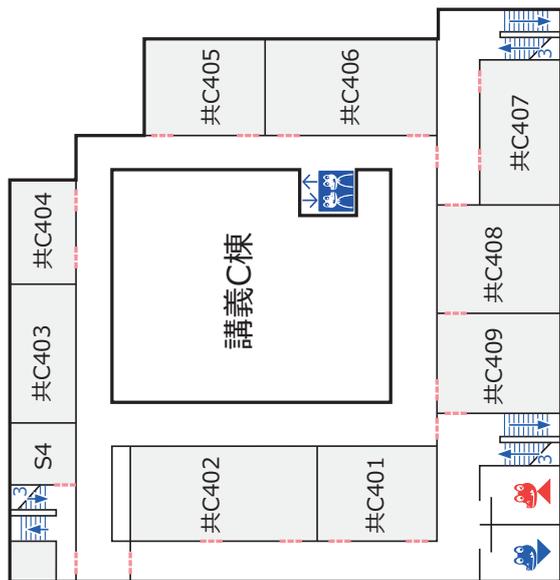
管理・講義A棟

講義B棟

3階



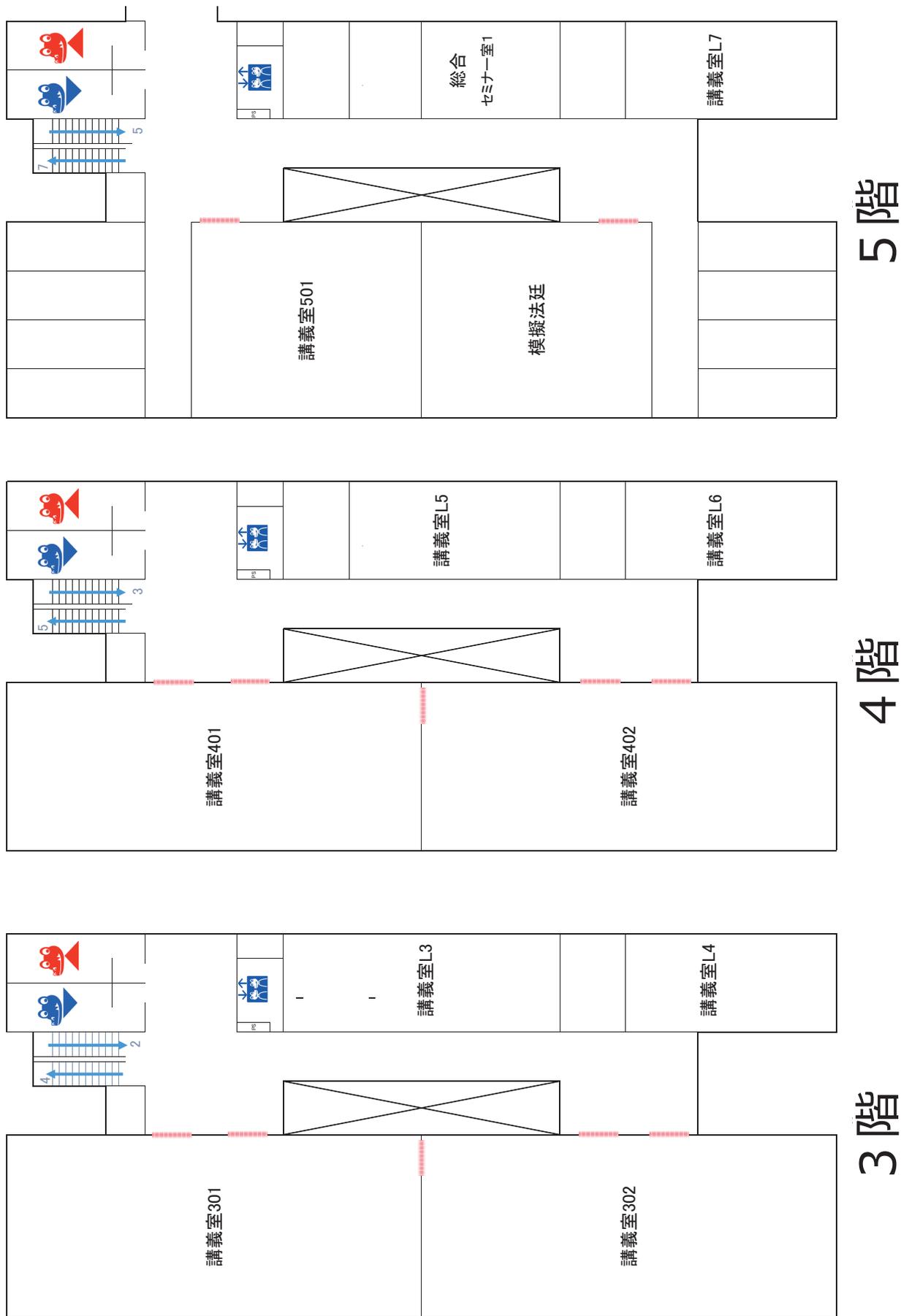
4階



5階



豊中総合学館 講義室配置図



## 大阪大学全学共通教育規程

第1条 この規程は、大阪大学学部学則第10条第4項の規定に基づき、全学共通教育科目の履修等に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 全学共通教育科目の区分は、次のとおりとする。

共通教育系科目

教養教育科目、言語・情報教育科目、基礎セミナー、健康・スポーツ教育科目

専門教育系科目

専門基礎教育科目

第3条 全学共通教育科目として開設する授業科目（以下「授業科目」という。）の科目名及び単位数は、別表1のとおりとする。ただし、人間科学部の人間科学コース並びに理学部、工学部及び基礎工学部の化学・生物学複合メジャーコースの授業科目の科目名及び単位数は、別表2のとおりとする。

第4条 授業科目の履修方法については、各学部規程の定めるところによる。

第5条 授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

- (1) 講義は、15時間をもって1単位とする。
- (2) 演習及び実習は、30時間をもって1単位とする。ただし、教養教育科目の国際コミュニケーション演習及び地域言語文化演習並びに基礎セミナーは、15時間をもって1単位とする。
- (3) 実験は、30時間又は45時間をもって1単位とする。

第6条 学生は、所定の期日までに履修しようとする授業科目を全学教育推進機構長（以下「機構長」という。）に届け出て、受講登録をし、許可を得なければならない。

2 既に単位を修得した授業科目については、再履修することができない。

第7条 各学期に試験を行う。ただし、授業科目により平常の成績をもって試験成績に代えることがある。

2 前条に定める手続きを経ない授業科目については、試験を受けることができない。

第8条 試験の成績は、100点を満点として次の評価をもって表し、S、A、B及びCを合格、Fを不合格とする。

- S (90点以上)
- A (80点以上90点未満)
- B (70点以上80点未満)
- C (60点以上70点未満)
- F (60点未満)

2 試験に合格した者には、所定の単位を与えるものとする。

第9条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この改正は、平成30年4月1日から施行する。

別 表 1

(略)

別 表 2

(略)

## よくある質問

Q. 大学からの連絡や掲示はどのようになっていますか？

A. 学生の皆さんへの連絡や通知は、原則KOAN掲示板、全学教育推進機構掲示板または各学部等の掲示板で行われます。一度掲示したものは周知されたものとして取り扱いますので、日頃から確認するよう心がけてください。

Q. 休講や補講はどのように確認することができますか？

A. KOANの休講・補講メニューを利用して各自で確認してください。  
また、休講については、全学教育推進機構掲示板でも確認することができます。  
※授業中のアナウンスのみの場合もありますので、聞き漏れのないようにしてください。

Q. 授業担当の教員には、どのように連絡を取ることができますか？

A. 授業担当の教員への質問等は、原則として講義中又は講義の前後に行ってください。  
授業時間以外に連絡を取りたい場合は、次の方法があります。

- ①メール… KOAN上のシラバスでは、教員のメールアドレスを公開していることがあります。  
各科目のシラバス下段に記載されている「授業担当教員」欄を確認してください。
- ②研究室… 教員の所属学部・研究科を大阪大学ホームページ「研究者総覧」等で調べ、研究室を訪ねてください。研究室の場所がわからない場合は、該当学部等の事務室に確認してください。また、オフィスアワーが設けられていることもありますので、教員の所属学部・研究科のホームページ等を確認してください。
- ③電 話… 各キャンパスの代表番号を通して教員の研究室に電話を掛けることができます。  
大阪大学ホームページなどで該当学部・研究科の所在を確認し、以下の番号に電話してください。

豊中キャンパス	06-6850-6111
吹田キャンパス (医・歯)	06-6879-5111
吹田キャンパス (その他)	06-6877-5111
箕面キャンパス	072-730-5111

なお、全学教育推進機構等事務部教務係では、公開されていない教員の連絡先を開示すること、および電話・メール等による担当教員への取次ぎは行いませんので予めご了承ください。

## Q. 大学に自主学修できる場所がありますか？

A. スチューデント・コモンズ、サイエンス・コモンズ、サイバーメディアセンター及び附属図書館等が利用できます。

### 【スチューデント・コモンズ】

場所：全学教育推進機構総合棟 I 1～2階

利用時間：8：30～20：00（「カルチエ」は平日のみ8：00から開放）

スチューデント・コモンズは、学生の主体的な学びの場、学生相互の自由な知的交流のための活動の場、また学生と教員のコミュニケーションを活性化させる場として、平成21年11月に豊中キャンパスに開設されました。スチューデント・コモンズと総称するこの空間には、カフェゾーン、情報ゾーン、自習ゾーンの「カルチエ」、いろいろな言語を学ぶための「カルチエ・ミュルチラング」、また各種セミナー室が設けられ、テーブル、椅子は移動・組み合わせが自由となるように配慮し、様々な教育活動や課外活動が展開出来るスペースとなっています。

また、授業期間中のお昼休みの時間に「多言語カフェ」（英語、中国語、朝鮮語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）をカルチエ・ミュルチラングで開催しています。10人以下のグループに分かれて、ネイティブ・スピーカー留学生がホスト役として加わり、ランチを食べながら各国の文化・習慣・社会現象についてなど自由におしゃべりしています。開催の日程等については、下記の全学教育推進機構「多言語カフェ」HPをご参照ください。

<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/students/international/cafe/>

### 【サイエンス・コモンズ】

場所：全学教育推進機構実験棟 1階・3階

利用時間：8：30～20：00

サイエンス・コモンズはサイエンスを身近に感じる空間として平成28年11月に豊中キャンパス共通教育実験棟に開設されました。サイエンス・コモンズでは、学生による研究発表やセミナー、実験機器の体験などを通じて、科学に触れることができます。科学映像の上映等々も今後実施していく予定です。また、イベントなどの使用がないときは、議論や会話の場、自主学習の場としても使えます。1階には、サイエンスのイベントと自主学習の場である Science StudioA&B、高度実験機器も設置され科学実験に身近に接することができる Science LabA&Bがあり、3階にはマルチラボ、マルチラボ・ミニが設置されています。

スチューデント・コモンズ、サイエンス・コモンズの利用方法については、下記にお問い合わせください。

問い合わせ先：全学教育推進機構総合棟 I 2階 セミナー室 A 内スタッフルーム

問い合わせ連絡先：06-6850-6148

多言語カフェについては、下記にお問い合わせください。

問い合わせ先：全学教育推進機構総合棟 I 2階 セミナー室 A 内スタッフルーム

問い合わせ連絡先：multilingual-cafe@celas.osaka-u.ac.jp

06-6850-5696

【サイバーメディアセンター】

サイバーメディアセンターでは、下表のとおり、学生が利用できるコンピュータ環境を整備しています。

サイバーメディアセンター教育用端末設置状況一覧・サービス時間

設置場所		端末	Printer	OS	端末の種類
<b>サイバーメディアセンター 豊中教育研究棟</b>					
1階	情報教育第1教室	66台	—	Windows 10	情報教育システム
	情報教育第2教室	78台	—		
2階	情報教育第3教室	66台	—		
	情報教育第4教室	45台	—		
3階	情報教育第5教室	72台	—		
	CALL第1教室	100台	—		CALLシステム
4階	CALL第2教室	60台	—		
	CALL第3教室	60台	—		
	CALL第4教室	35台	—		
<b>箕面キャンパス総合研究棟</b>					
4階	コンピュータ学習室	68台	3台	Windows 10	箕面システム
5階	情報処理第1教室	40台	1台		
	情報処理第2教室	25台	1台		
	箕面CALL教室 (CALL第7教室)	40台	—		CALLシステム
<b>附属図書館 総合図書館</b>					
A棟	2階	メインカウンターにて貸出	28台	Windows 10	マルチメディア端末
B棟	2階	ラーニング・commons	12台		情報教育システム
	3階	端末ゾーン	38台		
<b>附属図書館 生命科学図書館</b>					
1階	メインカウンターにて貸出	13台	—	Windows 10	マルチメディア端末
2階	端末コーナー	5台	—		情報教育システム
<b>附属図書館 理工学図書館</b>					
西館 1階	ラーニング・commons	20台	—	Windows 10	情報教育システム
	カウンターにて貸出	9台	—		マルチメディア端末
<b>附属図書館 外国語学図書館</b>					
1階	カウンターにて貸出	12台	—	Windows 10	マルチメディア端末

サービス時間	
<b>・授業開講期間</b>	
豊中教育研究棟	平日8時50分～21時30分
箕面キャンパス総合研究棟	平日9時40分～20時40分
<b>・授業休業期間</b>	
豊中教育研究棟	平日8時50分～17時00分
箕面キャンパス総合研究棟	平日9時40分～17時00分

※附属図書館の利用時間は、次頁を参照してください。

## 【附属図書館】

豊中キャンパスに総合図書館、吹田キャンパスに生命科学図書館と理工学図書館、箕面キャンパスに外国学図書館の4つの図書館があります。各館にはグループ学習ができる「ラーニング・commons」があります。ネットワーク環境が整った、学びのための共有スペースで、少人数セミナー型授業や講習会などにも活用されており、ラーニング・サポーター（LS）に学習相談も可能です。また総合図書館には、多言語・異文化理解のための学習スペース「グローバル・commons」もあります。

## 利用時間（開館時間）

（大阪大学附属図書館利用規程による）

名称	キャンパス	授業期間			休業期間		
		月～金	土・日	祝日	月～金	土・日	祝日
総合図書館	豊中	8時～22時	10時～19時	10時～17時	9時～19時		
生命科学図書館	吹田	9時～21時	10時～17時	休館 (2月のみ 10時～17時)	9時～21時	10時～17時	休館
理工学図書館		9時～22時	10時～19時	10時～17時	9時～17時 (8月のみ 9時～21時)		
外国語学図書館	箕面	9時～21時	10時～17時	休館	9時～17時		

※開館時間等は変更になる場合がありますので、図書館ホームページ等でご確認ください。

## Q. 落とし物をしてしまったらどこに行けばいいですか？

A. 全学教育推進機構等事務部教務係に届けられた落とし物は、同係内のキャビネット等に保管していますので、各自で確認し、もし自分の落とし物が保管されていれば申し出てください。ただし、すべての落とし物が全学教育推進機構に届くわけではありませんので、他に忘れた心当たりのある場所があれば、近くの事務室（各学部、学生センター等）にもお問い合わせください。

## Q. 課外活動のために講義室を借りることはできますか？

A. 全学教育推進機構の講義室は、大阪大学公認団体を対象に、講義C棟と大講義室のみ貸出を行っています。貸出可能な期間や貸出手続きについては、教務係内に設置された「阪大公認サークルC棟教室貸出予約台帳」をご覧ください。

※上記以外に、全学教育推進機構HPにQ&Aをまとめていますので、不明な点がありましたらこちらからもご確認ください。

<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/students/help/faq/>



全学共通教育科目

履修の手引

<理学部>

【問い合わせ先】

大阪大学全学教育推進機構等事務部教務係

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-16

TEL :06-6850-5610